

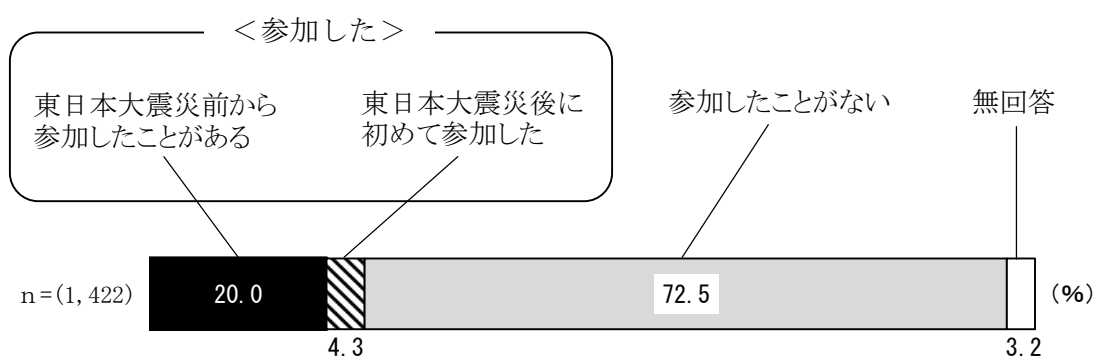
8 市民の防災意識について

8-1 「防災訓練」への参加状況

◎「参加したことがない」が72.5%

問30 あなたは、川崎市や、お住いの地域の町内会・自主防災組織等が主催する「防災訓練」に参加したことがありますか。(〇は1つだけ)

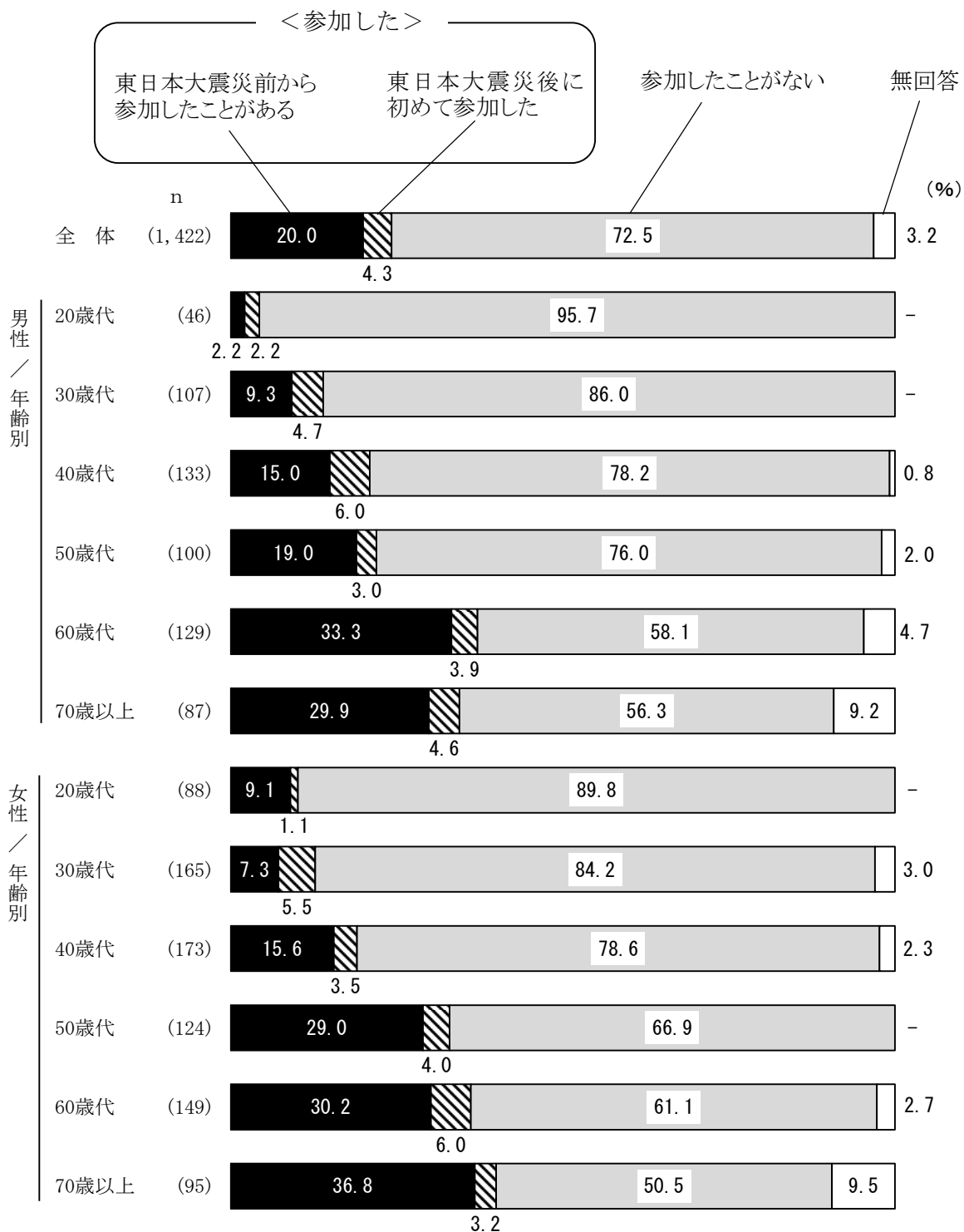
図表8-1 「防災訓練」への参加状況



「防災訓練」への参加状況は、「東日本大震災前から参加したことがある」(20.0%)と「東日本大震災後に初めて参加した」(4.3%)を合わせた<参加した>は24.3%であった。一方、「参加したことがない」(72.5%)は7割となっている。(図表8-1)

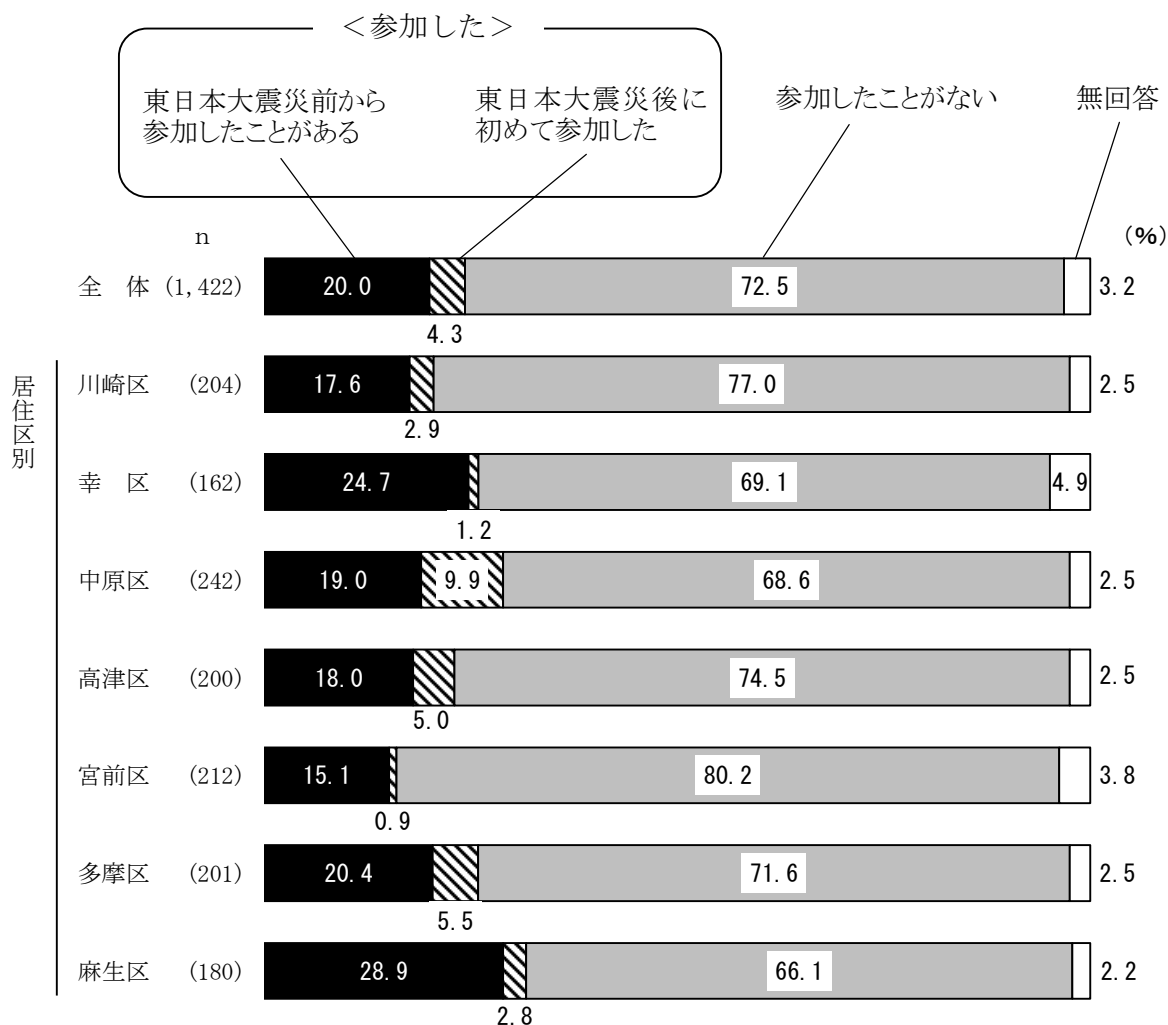
(第2回アンケート)

図表8-2 「防災訓練」への参加状況(性/年齢別)



性/年齢別では、「東日本大震災前から参加したことがある」と「東日本大震災後に初めて参加した」を合わせた「参加した」は、男女ともにおおむね年齢が上がるにつれて割合が多くなる傾向となっており、男性は60歳代、女性は70歳以上が最も多くなっている。(図表8-2)

図表8-3 「防災訓練」への参加状況（居住区別）



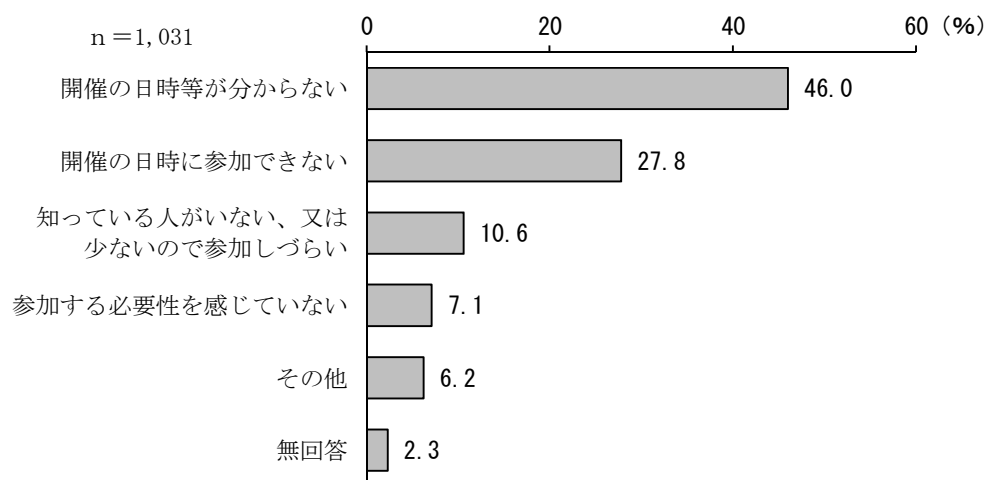
居住区別では、「東日本大震災前から参加したことがある」と「東日本大震災後に初めて参加した」を合わせた＜参加した＞は、麻生区（31.7%）が最も多く、一方、「参加したことがない」は、宮前区（80.2%）が最も多くなっている。（図表8-3）

8-2 「防災訓練」に参加しない理由

◎「開催の日時等が分からない」が46.0%

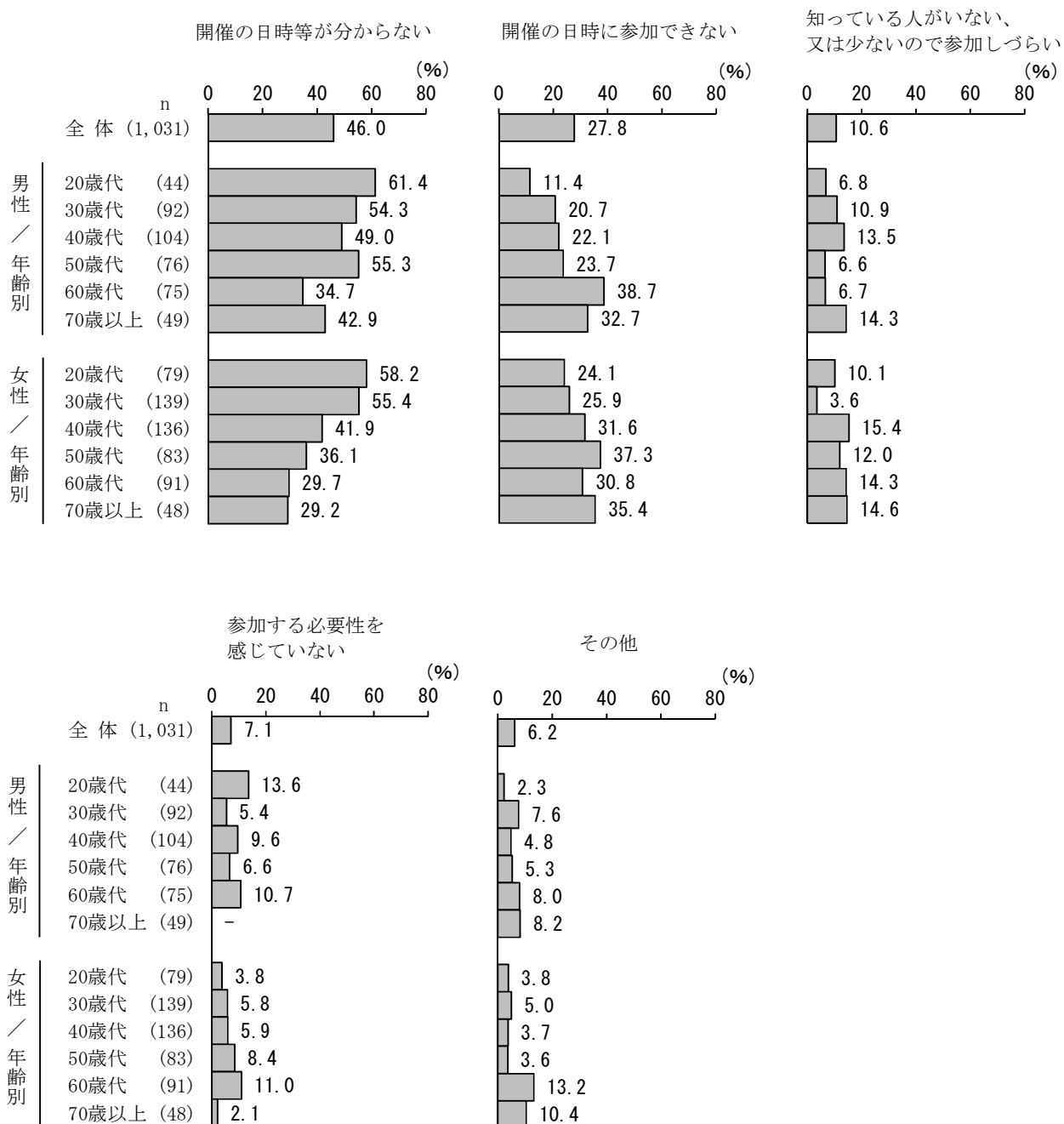
問30-1 (問30で「3 参加したことがない」と回答した方にうかがいます。)
あなたが参加しない理由は何ですか。(○は1つだけ)

図表8-4 「防災訓練」に参加しない理由



「防災訓練」に参加しない理由は、「開催の日時等が分からない」が46.0%と4割を超え最も多く、「開催の日時に参加できない」(27.8%)、「知っている人がいない、又は少ないので参加しづらい」(10.6%)、「参加する必要性を感じていない」(7.1%)の順となっている。(図表8-4)

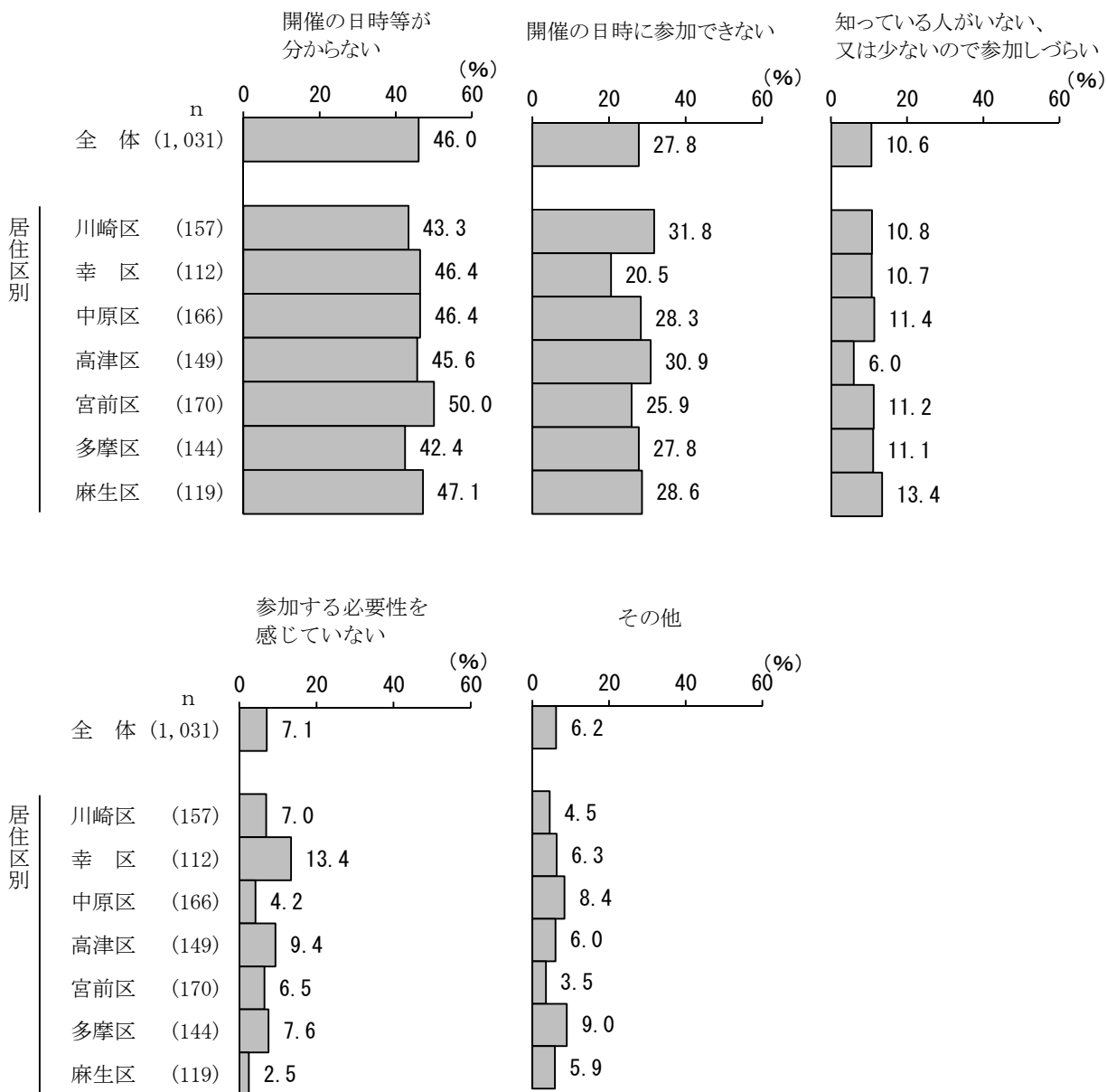
図表8-5 「防災訓練」に参加しない理由(性/年齢別)



性/年齢別では、「開催の日時等が分からない」は、男性20歳代、30歳代、50歳代と女性20歳代、30歳代が5割を超え多くなっている。「開催の日時に参加できない」は、男性では、60歳代、70歳以上、女性では、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上で3割を超え多くなっている。(図表8-5)

(第2回アンケート)

図表8-6 「防災訓練」に参加しない理由(居住区別)



居住区別では、「開催の日時等が分からない」は、宮前区(50.0%)が5割と多くなっている。「開催の日時に参加できない」は、川崎区(31.8%)、高津区(30.9%)が3割台と多くなっている。「知っている人がいない、又は少ないので参加しづらい」は、麻生区(13.4%)が最も多くなっている。(図表8-6)

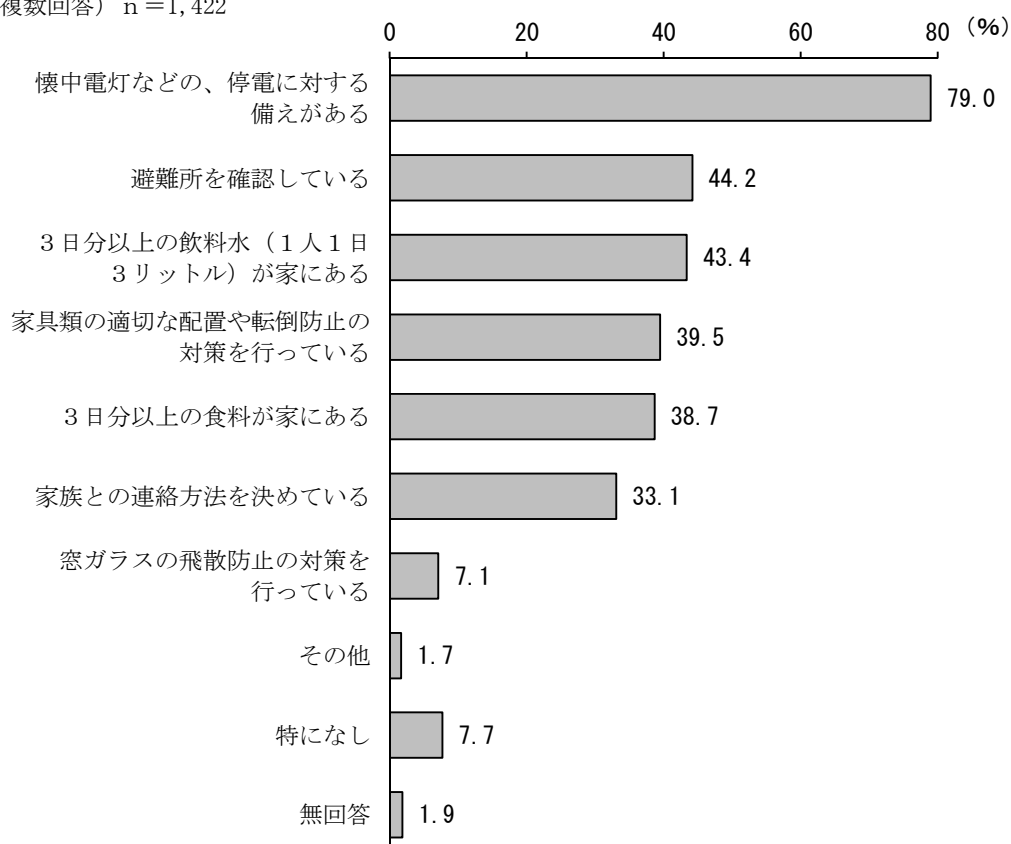
8-3 大規模な地震等に備えた家庭内での取組

◎「懐中電灯などの、停電に対する備えがある」が79.0%

問31 防災に関する家庭内での取組や食料等の状況についてお聞きします。
あなたは現在、大規模な地震に対応するため、家庭内で次のような取組を行っていますか。
また、食料等の状況をお答えください。(あてはまるもの全てに○)

図表8-7 大規模な地震等に備えた家庭内での取組

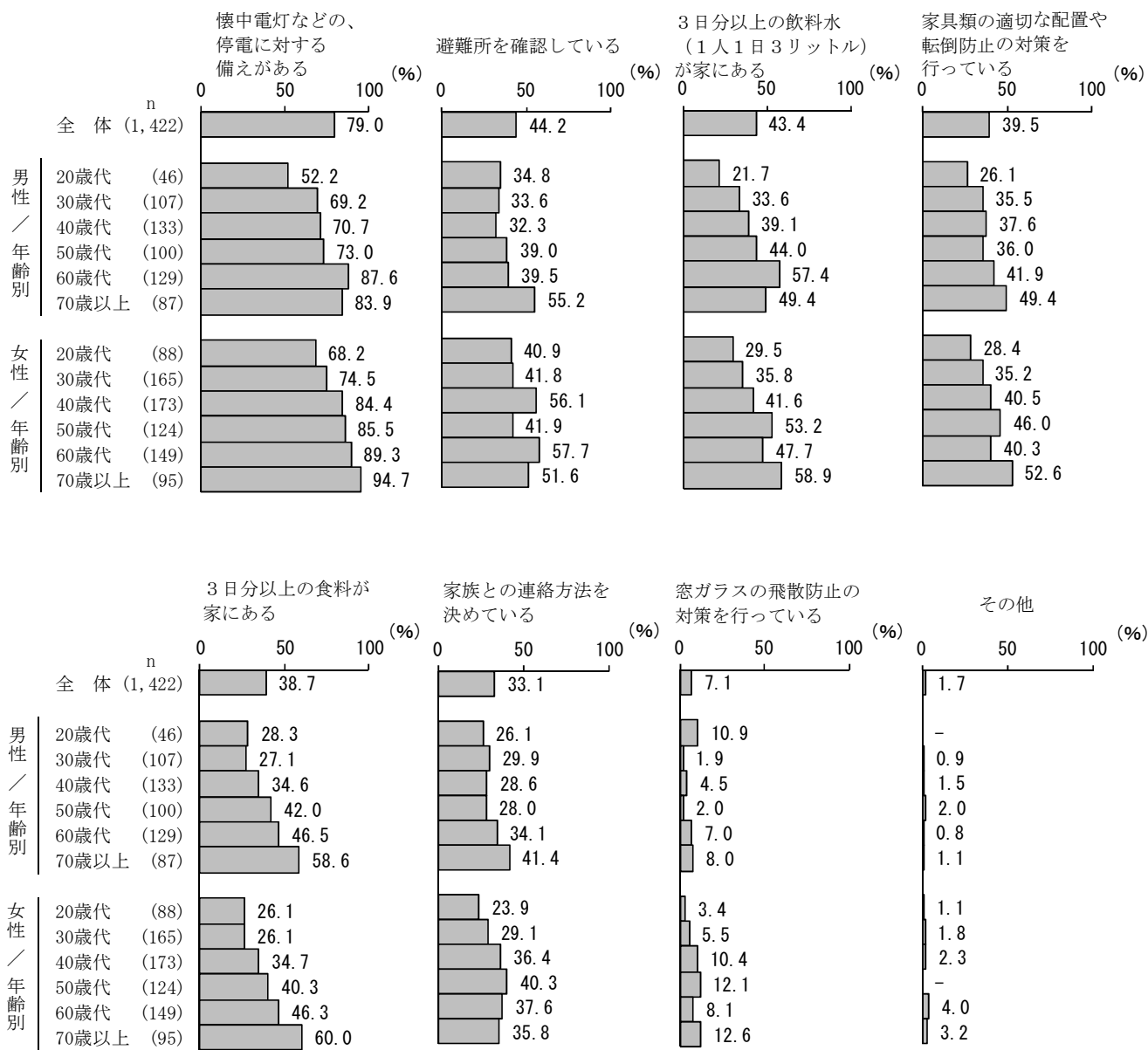
(複数回答) n=1,422



大規模な地震等に備えた家庭内での取組について、「懐中電灯などの、停電に対する備えがある」(79.0%)が7割台後半と最も多くなっている。次いで、「避難所を確認している」(44.2%)、「3日分以上の飲料水(1人1日3リットル)が家にある」(43.4%)、「家具類の適切な配置や転倒防止の対策を行っている」(39.5%)が続いている。(図表8-7)

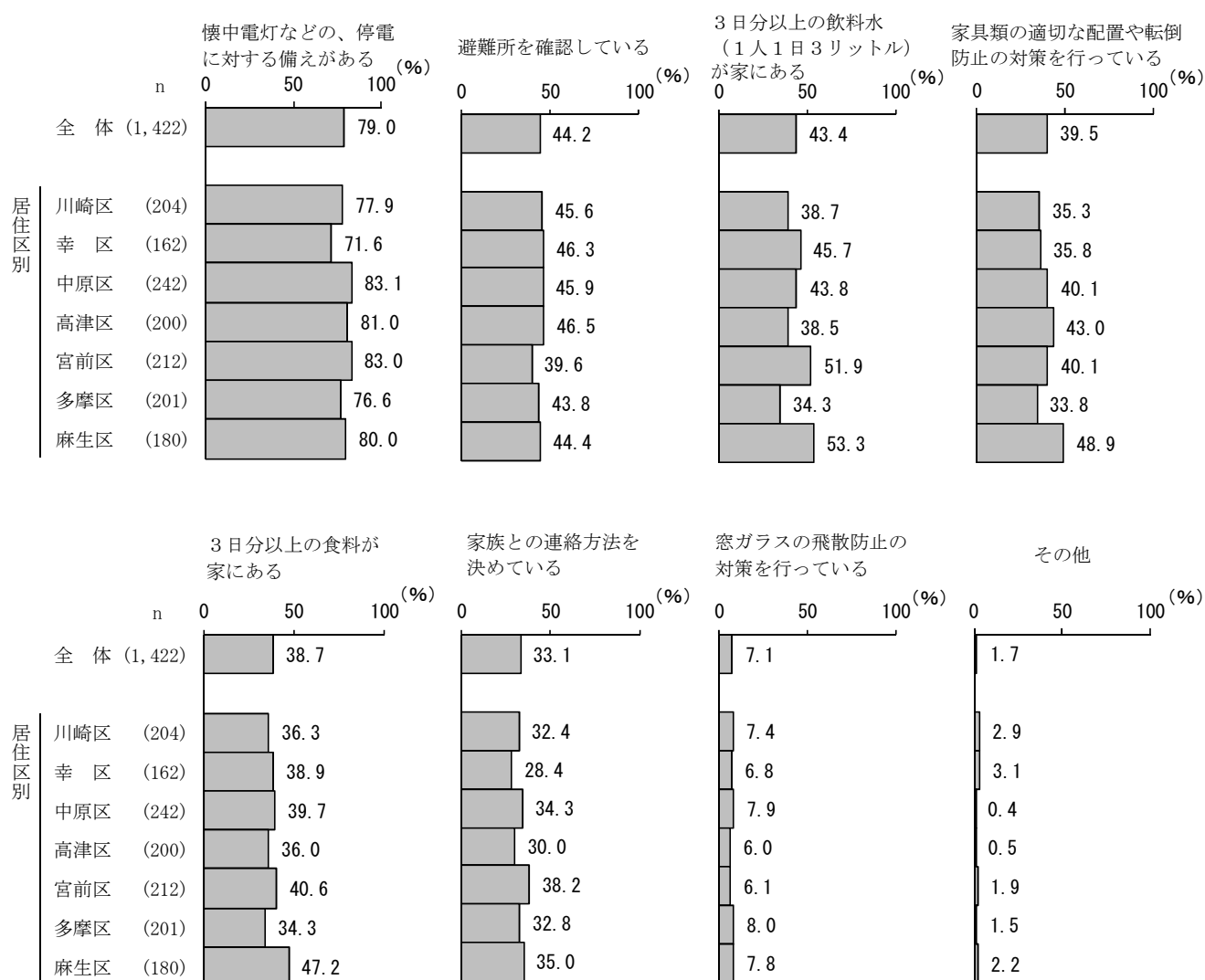
(第2回アンケート)

図表8-8 大規模な地震等に備えた家庭内での取組(性/年齢別)



性/年齢別では、「懐中電灯などの、停電に対する備えがある」は、年齢が上がるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「避難所を確認している」は、男性40歳代(32.3%)が最も少なくなっている。「3日分以上の飲料水(1人1日3リットル)が家にある」は、男性60歳代(57.4%)、女性70歳以上(58.9%)が最も多くなっている。(図表8-8)

図表8-9 大規模な地震等に備えた家庭内での取組（居住区別）



居住区別では、「懐中電灯などの、停電に対する備えがある」は、全ての地区で7割台を超え多くなっている。「避難所を確認している」は、宮前区（39.6%）が3割台と少なくなっている。「3日以上の飲料水（1人1日3リットル）が家にある」は、麻生区（53.3%）と宮前区（51.9%）が5割を超えて多くなっている。（図表8-9）

8-4 川崎市からの災害情報配信の入手手段

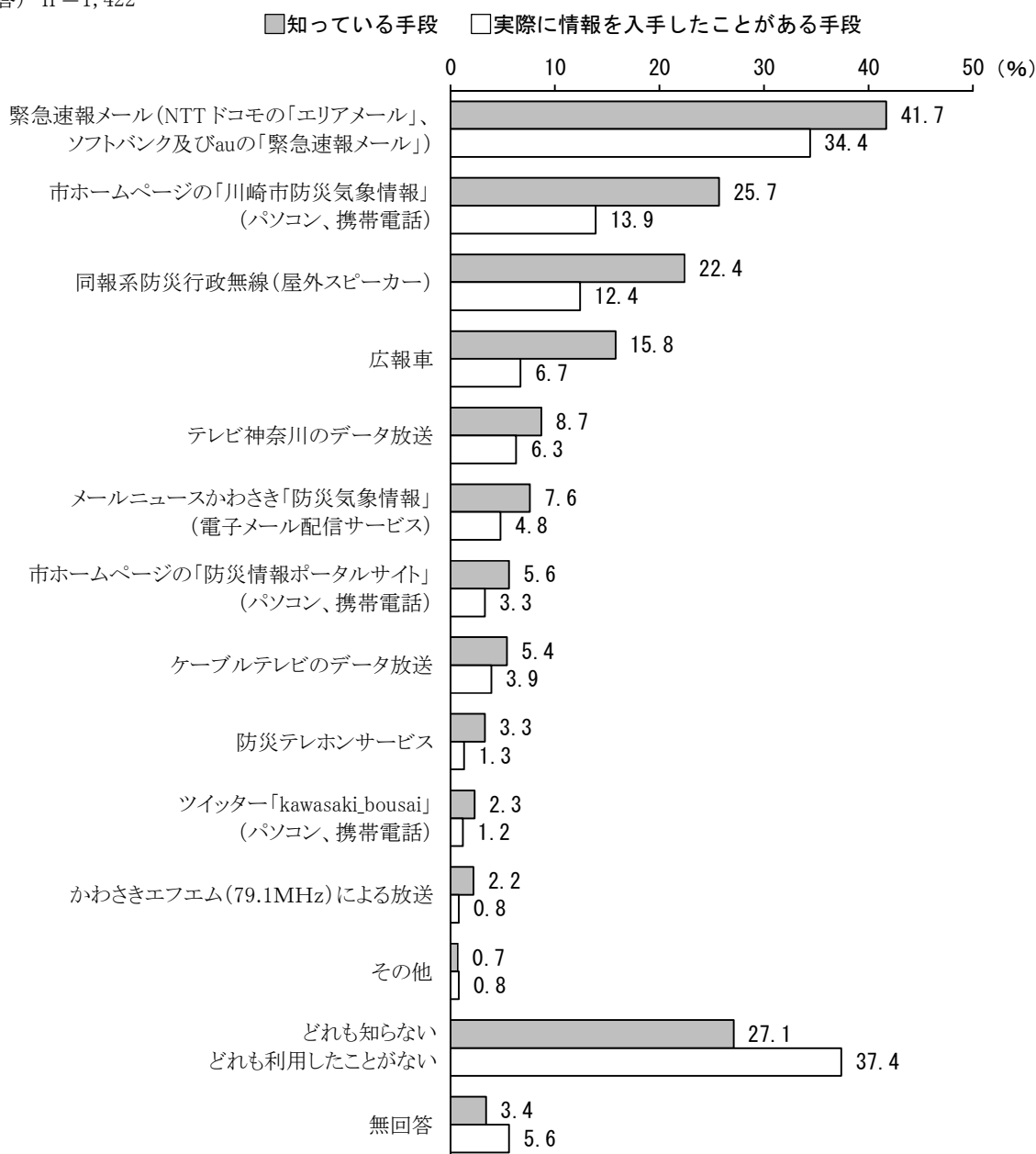
◎「緊急速報メール」が41.7%

問 32 川崎市では、災害に関する情報をさまざまな手段を用いて配信しています。あなたは、次の手段で配信していることを知っていますか。(あてはまるもの全てに○)

問 32-1 あなたは、どの手段を利用したことがありますか。(あてはまるもの全てに○)

図表 8-10 川崎市からの災害情報配信の入手手段

(複数回答) n=1,422

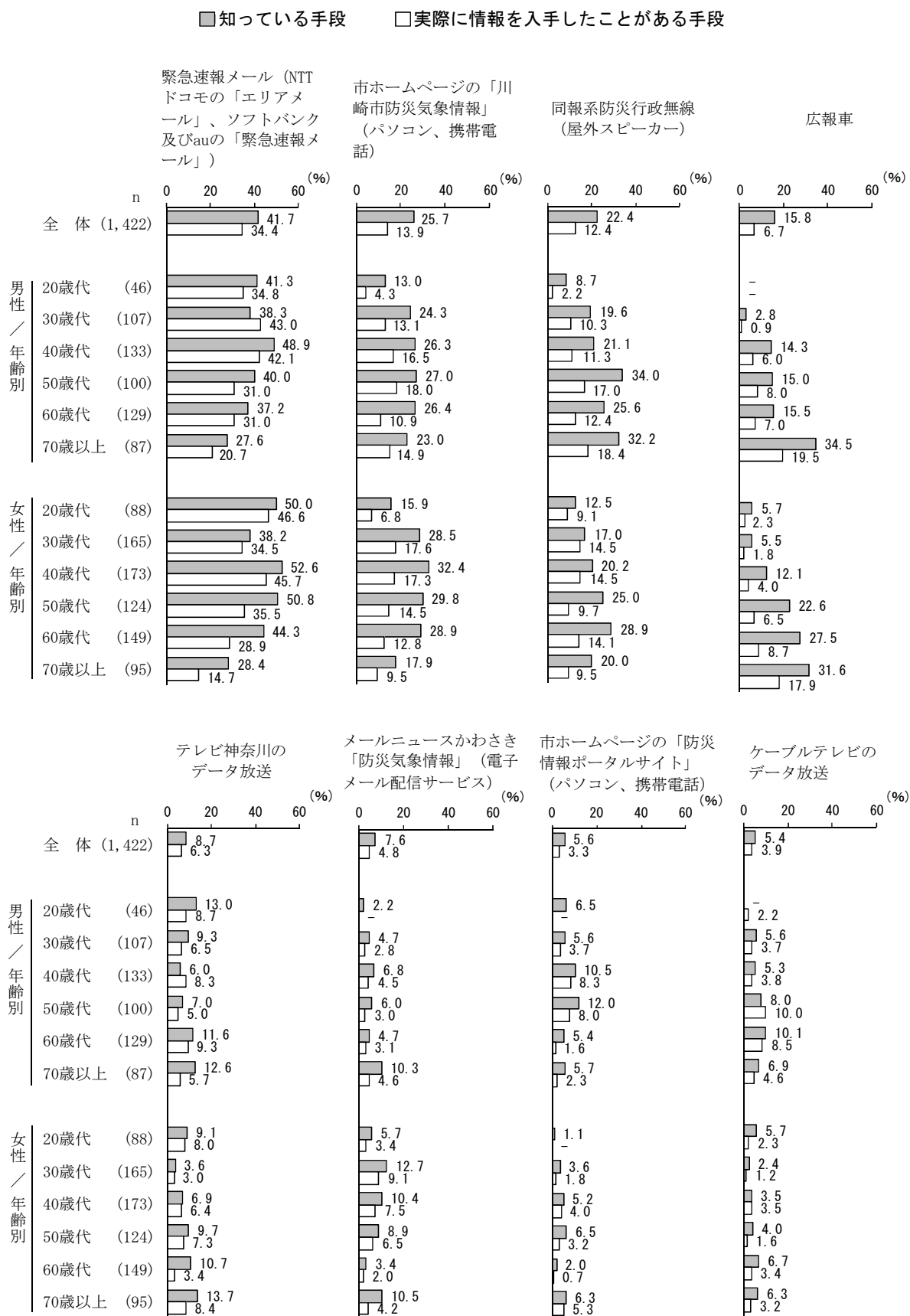


川崎市からの災害に関する情報の入手手段のうち、知っている手段については、「緊急速報メール (NTT ドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及び au の「緊急速報メール」)」(41.7%) が、4割と最も多くなっている。次いで、「市ホームページの「川崎市防災気象情報」(パソコン、携帯電話)」(25.7%)、「同報系防災行政無線 (屋外スピーカー)」(22.4%) の順となっている。

実際に、情報を入手したことがある手段は、「緊急速報メール (NTT ドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及び au の「緊急速報メール」)」(34.4%) が最も多く、次いで、「市ホームページの「川崎市防災気象情報」(パソコン、携帯電話)」(13.9%)、「同報系防災行政無線 (屋外スピーカー)」(12.4%) の順となっている。(図表8-10)

(第2回アンケート)

図表8-11 川崎市からの災害情報配信の入手手段（性／年齢別、上位8項目）

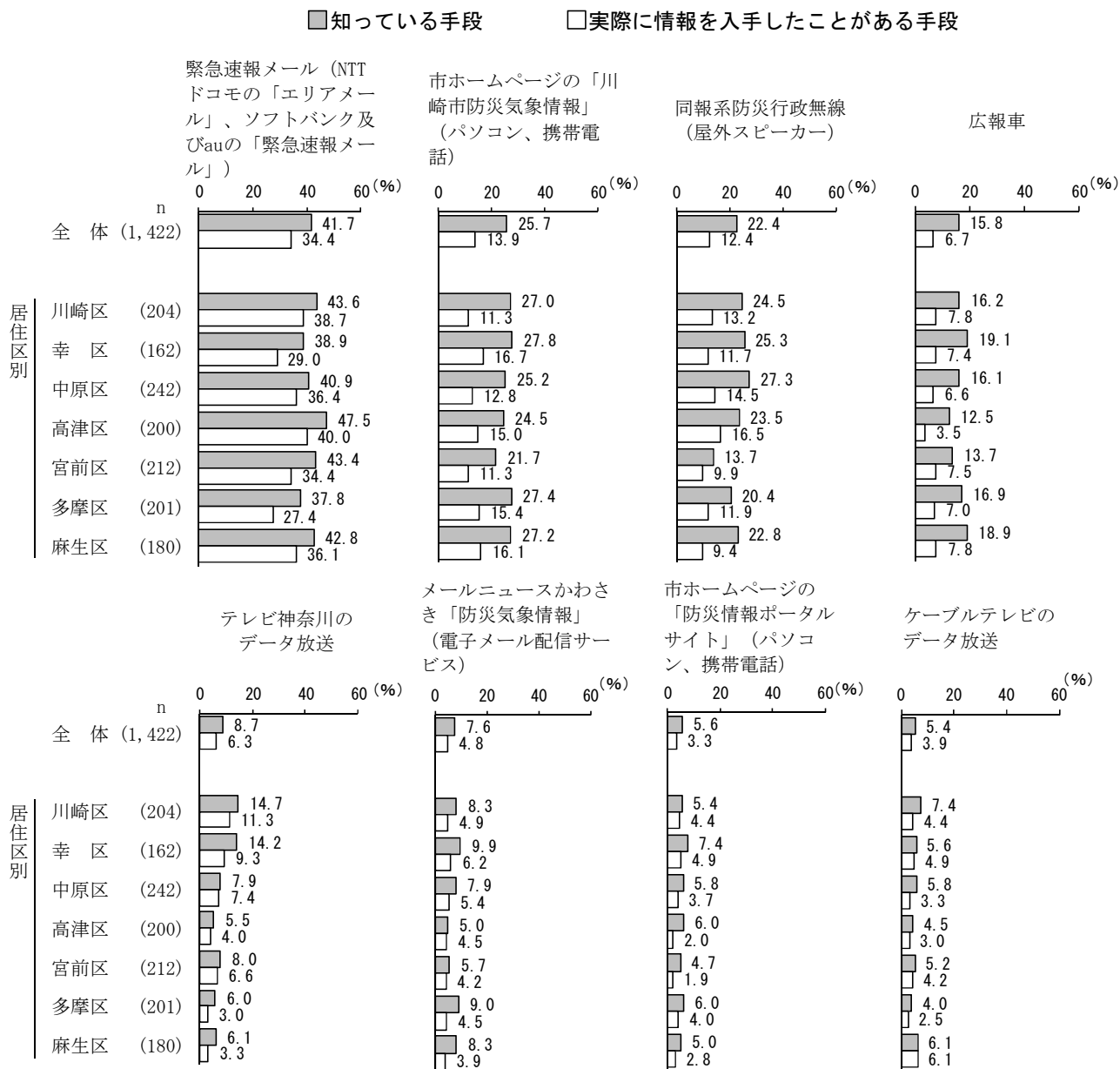


性／年齢別では、知っている手段については、「緊急速報メール(NTT ドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及び au の「緊急速報メール」)」は、男女とも 40 歳代が最も多くなっている。「市ホームページの「川崎市防災気象情報」(パソコン、携帯電話)」は、男女とも 20 歳代が最も少なくなっている。「同報系防災行政無線(屋外スピーカー)」は、男性 50 歳代が最も多くなっている。

実際に情報を入手したことがある手段については、「緊急速報メール(NTT ドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及び au の「緊急速報メール」)」は、男性では、30 歳代(43.0%)、40 歳代(42.1%)、女性では、20 歳代(46.6%)、40 歳代(45.7%)で4割を超えている。「市ホームページの「川崎市防災気象情報」(パソコン、携帯電話)」は、男性では、40 歳代(16.5%)、50 歳代(18.0%)、女性では30 歳代(17.6%)、40 歳代(17.3%)で多くなっている。男女とも20 歳代の利用は少なくなっている。(図表8-11)

(第2回アンケート)

図表8-12 川崎市からの災害情報配信の入手手段（居住区別、上位8項目）



居住区別では、知っている手段については、「緊急速報メール (NTT ドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及び au の「緊急速報メール」)」は、高津区 (47.5%) が最も多く、次いで、川崎区 (43.6%)、宮前区 (43.4%)、麻生区 (42.8%) となっている。「市ホームページの「川崎市防災気象情報」 (パソコン、携帯電話)」は、宮前区 (21.7%) が最も少なく、「同報系防災行政無線 (野外スピーカー)」についても宮前区 (13.7%) が最も少なくなっている。

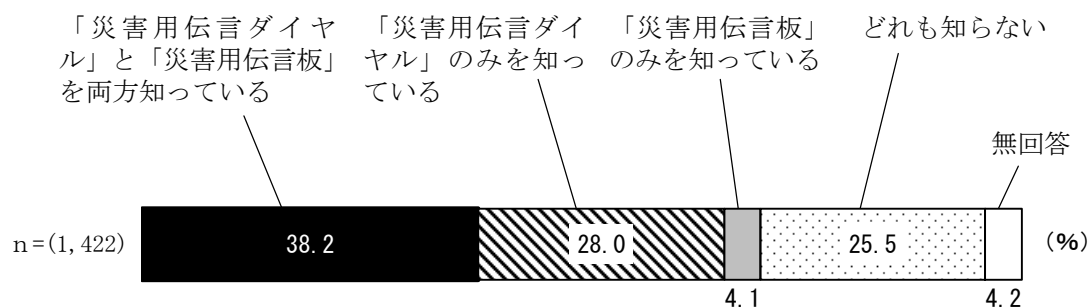
実際に情報を入手したことがある手段については、「緊急速報メール (NTT ドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及び au の「緊急速報メール」)」は、高津区 (40.0%) が最も多く、次いで、川崎区 (38.7%)、中原区 (36.4%) となっている。「市ホームページの「川崎市防災気象情報」 (パソコン、携帯電話)」は、幸区 (16.7%)、麻生区 (16.1%) の順に多くなっている。(図表8-12)

8-5 「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」の認知度

◎「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」を両方知っているが38.2%

問33 あなたは、「災害用伝言ダイヤル」や「災害用伝言板」を知っていますか。(○は1つだけ)

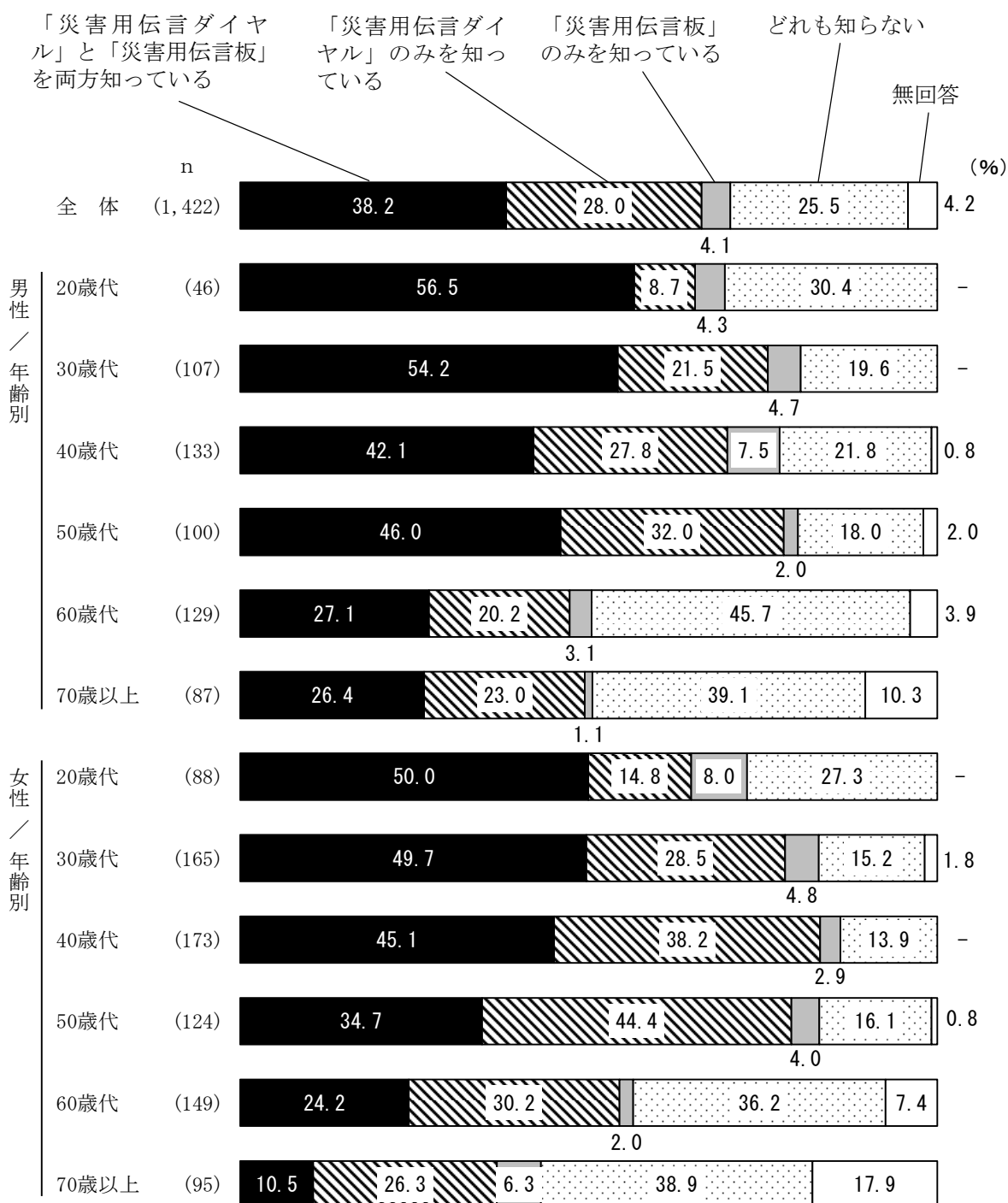
図表8-13 「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」の認知度



「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」の認知度については、「両方知っている」が、38.2%と最も多くなっている。「どれも知らない」は、25.5%と4人に1人は知らない人がいる。(図表8-13)

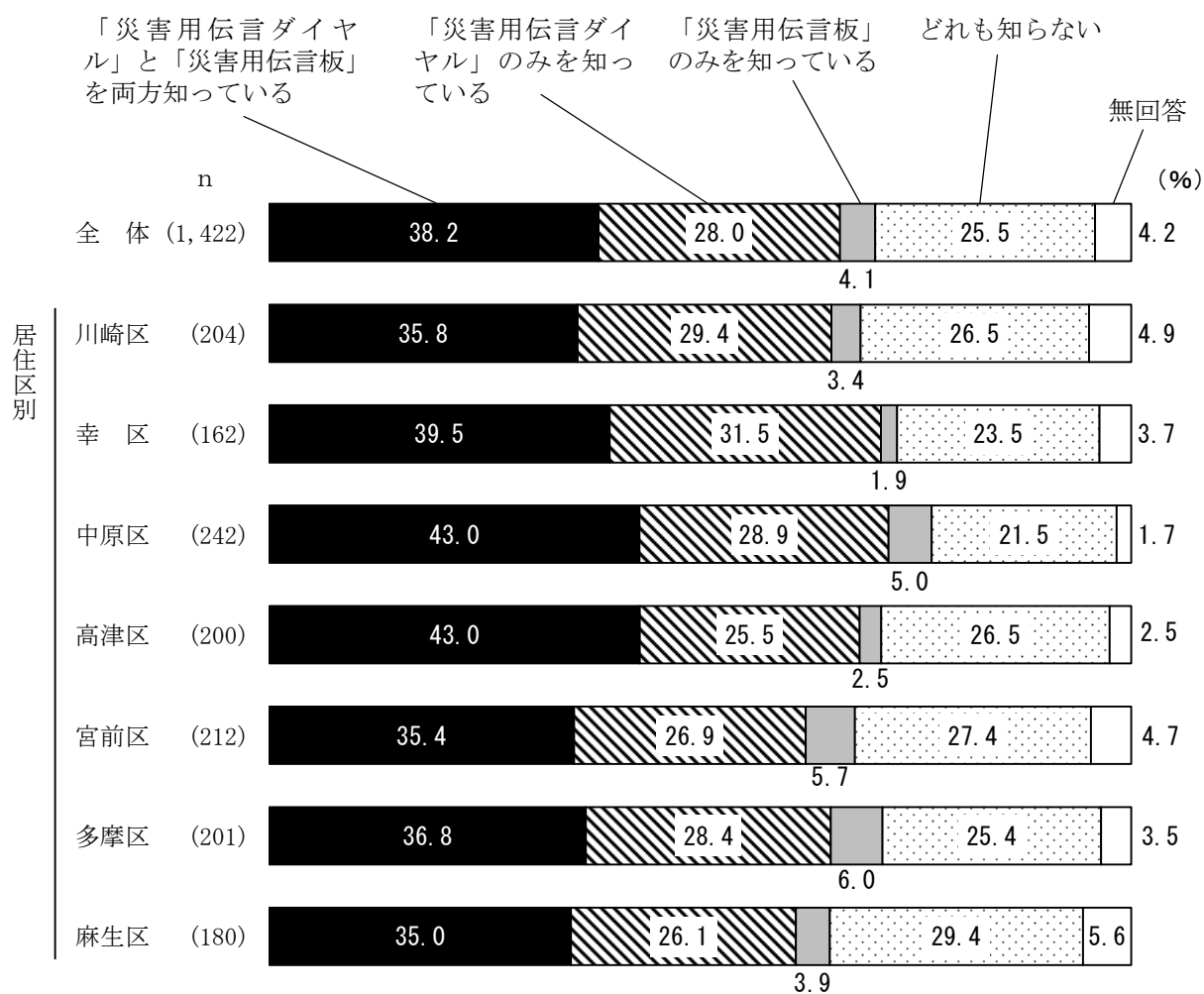
(第2回アンケート)

図表8-14 「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」の認知度(性/年齢別)



性/年齢別では、「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」を両方知っているが、男性では、20歳代(56.5%)、30歳代(54.2%)が、女性では、20歳代(50.0%)が5割を超えている。女性は、年齢が高くなるほど、知っている人が少なくなっており、「どちらも知らない」は、男女とも、60歳代、70歳以上で多くなっている。(図表8-14)

図表8-15 「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」の認知度（居住区別）



居住区別では、「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」を両方知っているが、中原区(43.0%)、高津区(43.0%)で最も多くなっている。「どちらも知らない」は麻生区(29.4%)、宮前区(27.4%)で多くなっている。(図表8-15)

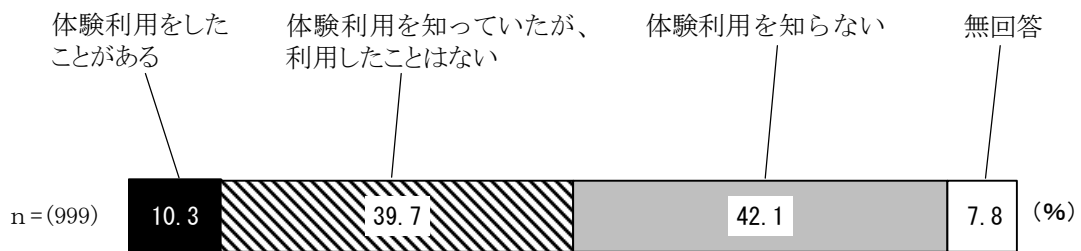
8-6 「災害用伝言ダイヤル」の体験利用

◎「体験利用を知らない」が42.1%

問 33-1 (問 33 で「4 どれも知らない」と答えた方は回答不用です)

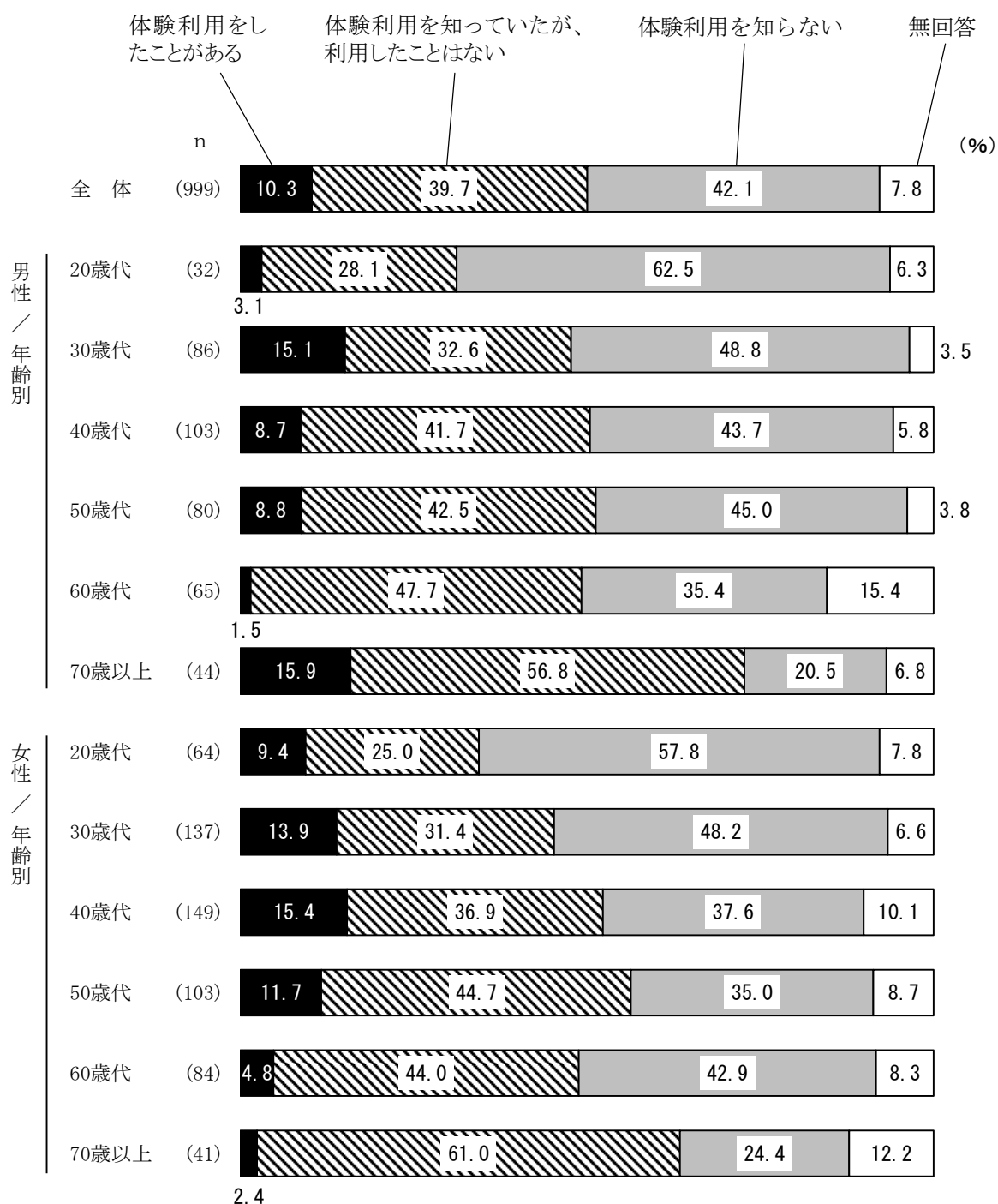
あなたは、「災害用伝言ダイヤル」の体験利用をしたことがありますか。(○は1つだけ)

図表 8-16 「災害用伝言ダイヤル」の体験利用



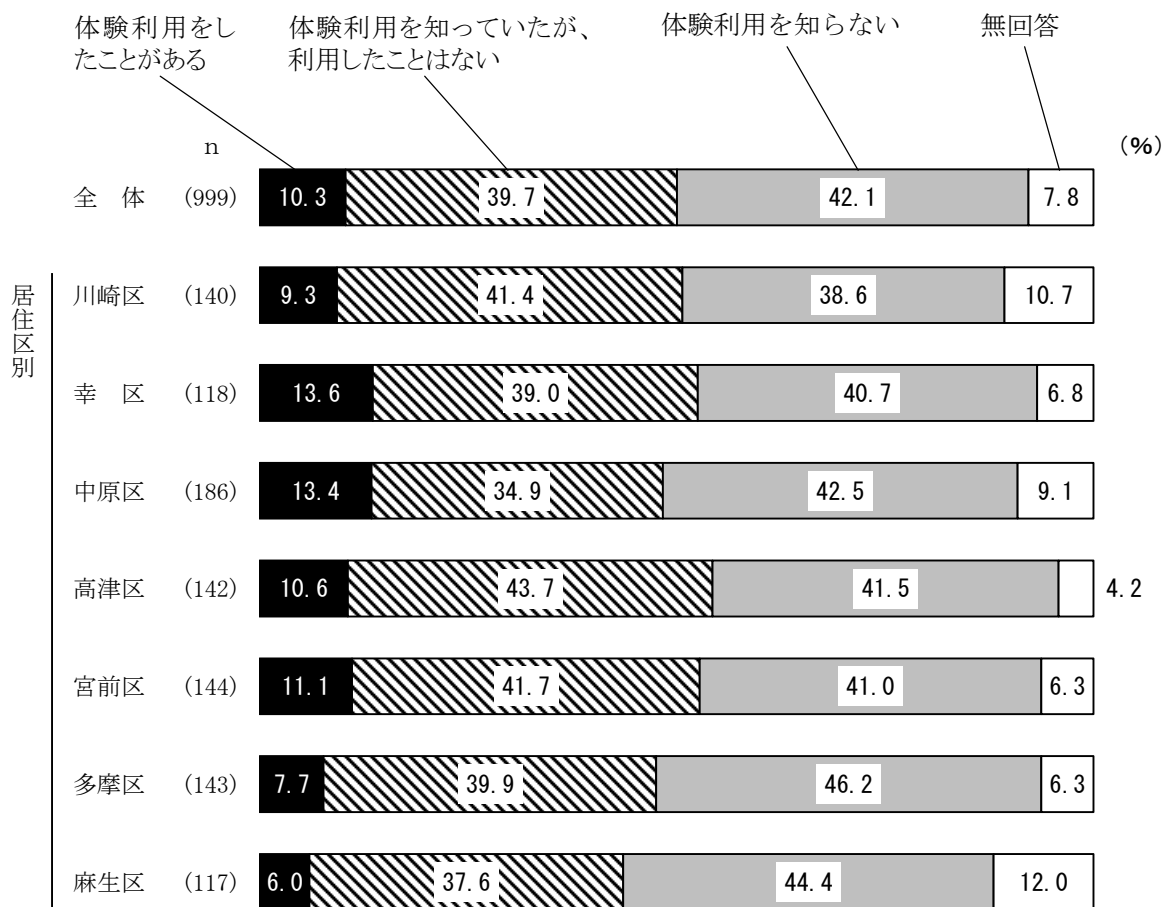
「災害用伝言ダイヤル」の体験利用については、「体験利用を知らない」(42.1%)が4割と多く、「体験利用をしたことがある」(10.3%)は、1割に留まっている。(図表 8-16)

図表 8-17 「災害用伝言ダイヤル」の体験利用（性／年齢別）



性／年齢別では、「体験利用をしたことがある」は、男性では、30歳代（15.1%）、70歳以上（15.9%）、女性では、30歳代（13.9%）、40歳代（15.4%）が多くなっている。（図表8-17）

図表8-18 「災害用伝言ダイヤル」の体験利用（居住区別）



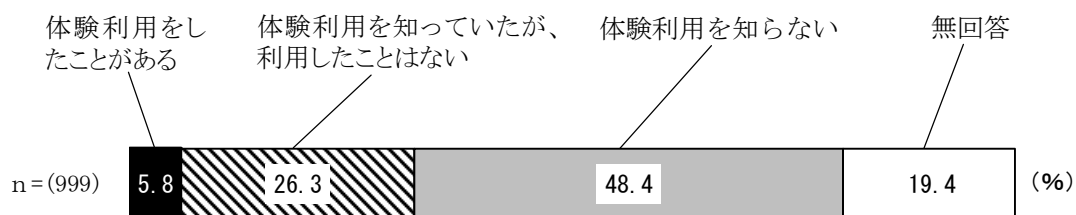
居住区別では、「体験利用をしたことがある」は、幸区（13.6%）が最も多くなっている。次いで、中原区（13.4%）、宮前区（11.1%）と続いている。（図表8-18）

8-7 「災害用伝言板」の体験利用

◎「体験利用を知らない」が48.4%

問33-2 (問33で「4 どれも知らない」と答えた方は回答不用です。)
あなたは、「災害用伝言板」の体験利用をしたことがありますか。(○は1つだけ)

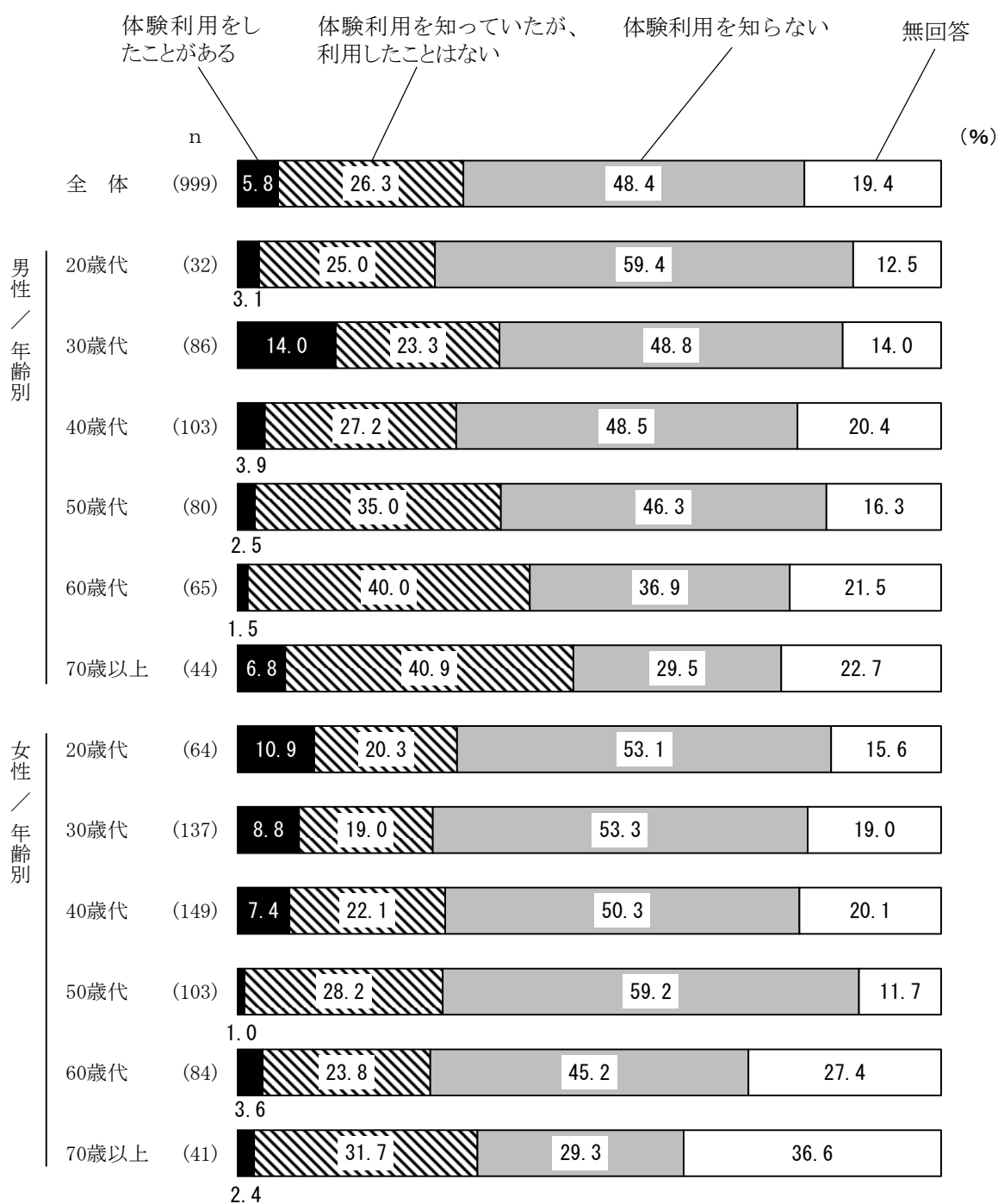
図表8-19 「災害用伝言板」の体験利用



「災害用伝言板」の体験利用については、「体験利用を知らない」(48.4%)が最も多く、「体験利用をしたことがある」(5.8%)は、1割に満たない。(図表8-19)

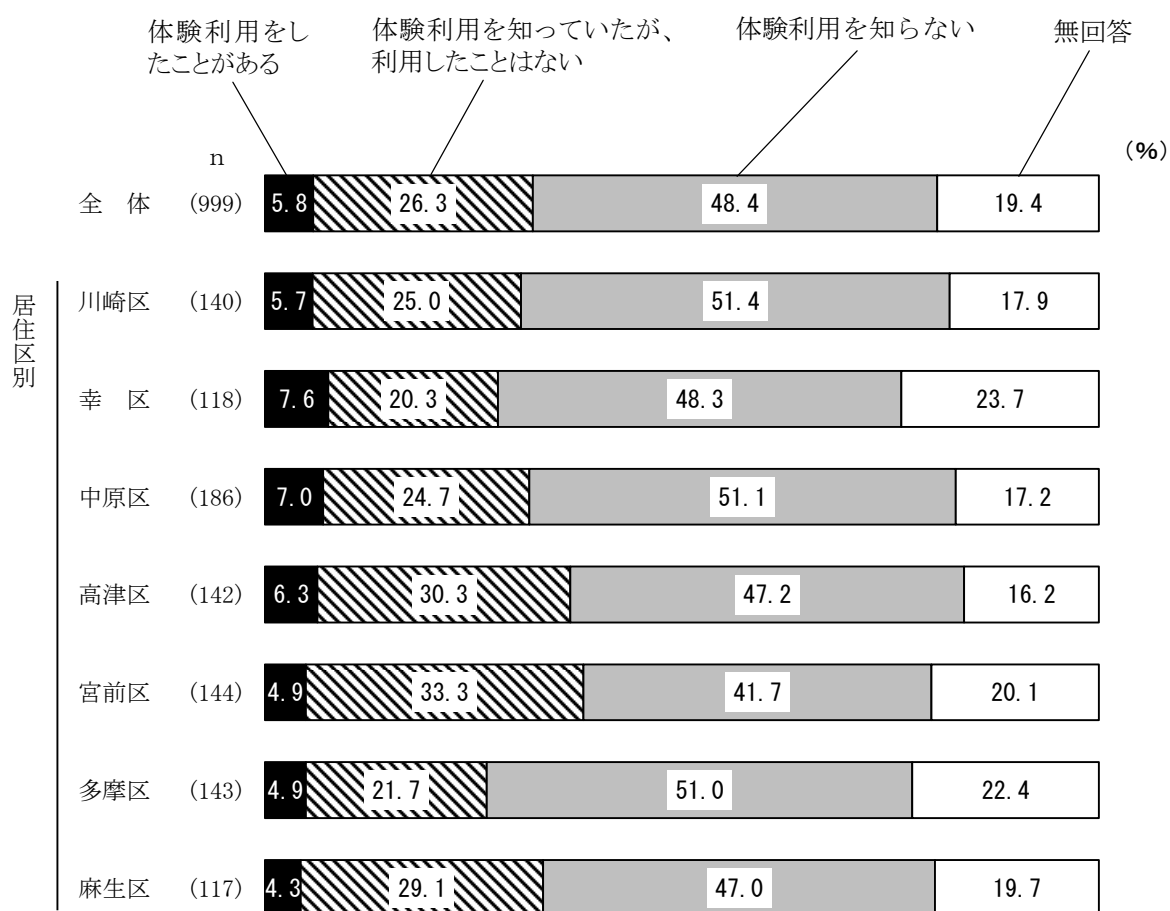
(第2回アンケート)

図表8-20 「災害用伝言板」の体験利用(性/年齢別)



性/年齢別では、「体験利用をしたことがある」は、男性では、30歳代(14.0%)、女性では、20歳代(10.9%)が最も多くなっている。(図表8-20)

図表8-21 「災害用伝言板」の体験利用(居住区別)



居住区別では、「体験利用をしたことがある」は、幸区(7.6%)が最も多く、次いで、中原区(7.0%)、高津区(6.3%)、川崎区(5.7%)と続いている。(図表8-21)

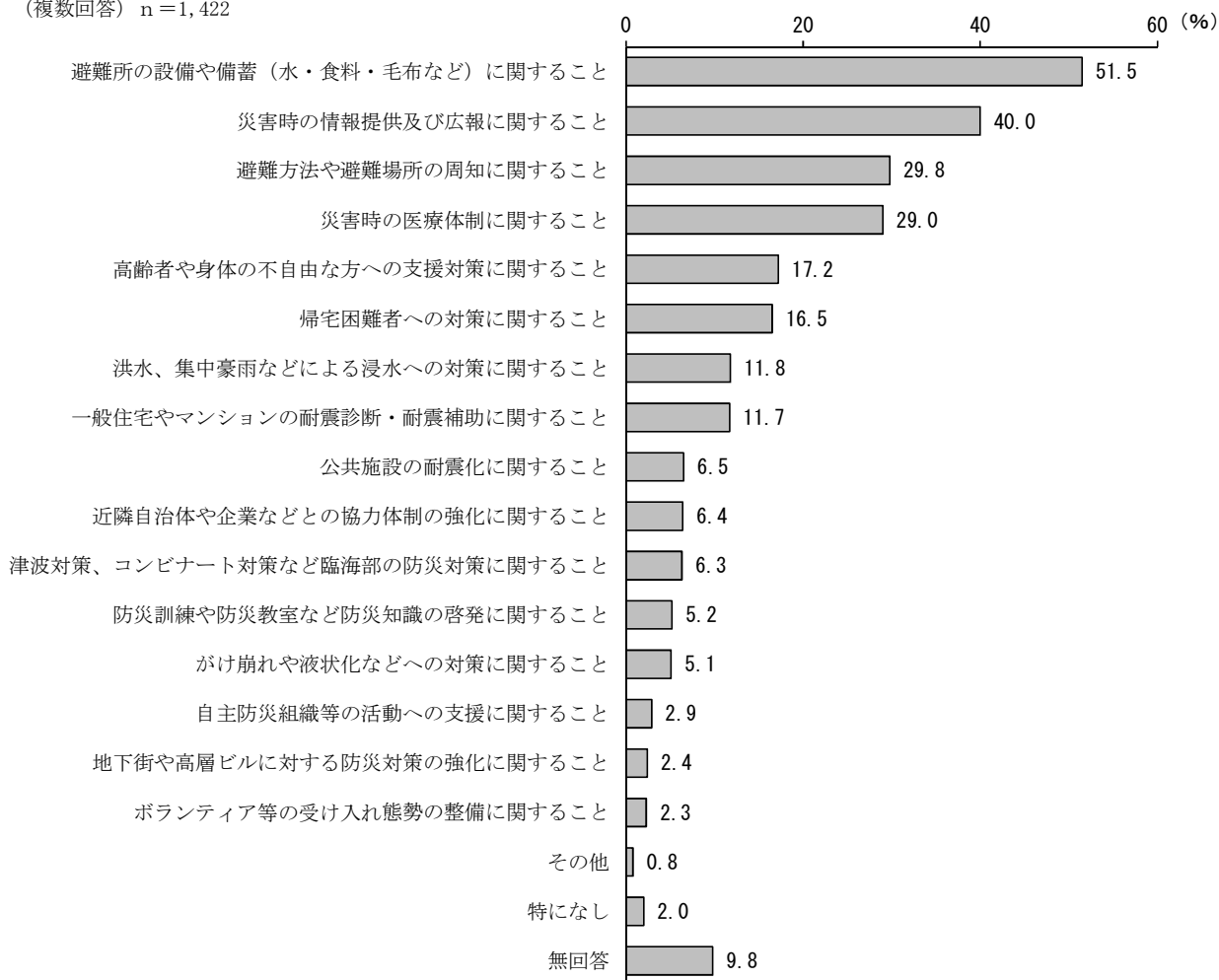
8-8 防災対策で行政に特に力を入れてもらいたいこと

◎「避難所の設備や備蓄（水・食料・毛布など）に関すること」が51.5%

問34 あなたが、防災対策について行政に特に力を入れてもらいたいことは何ですか。
(あてはまるもの3つまでに○)

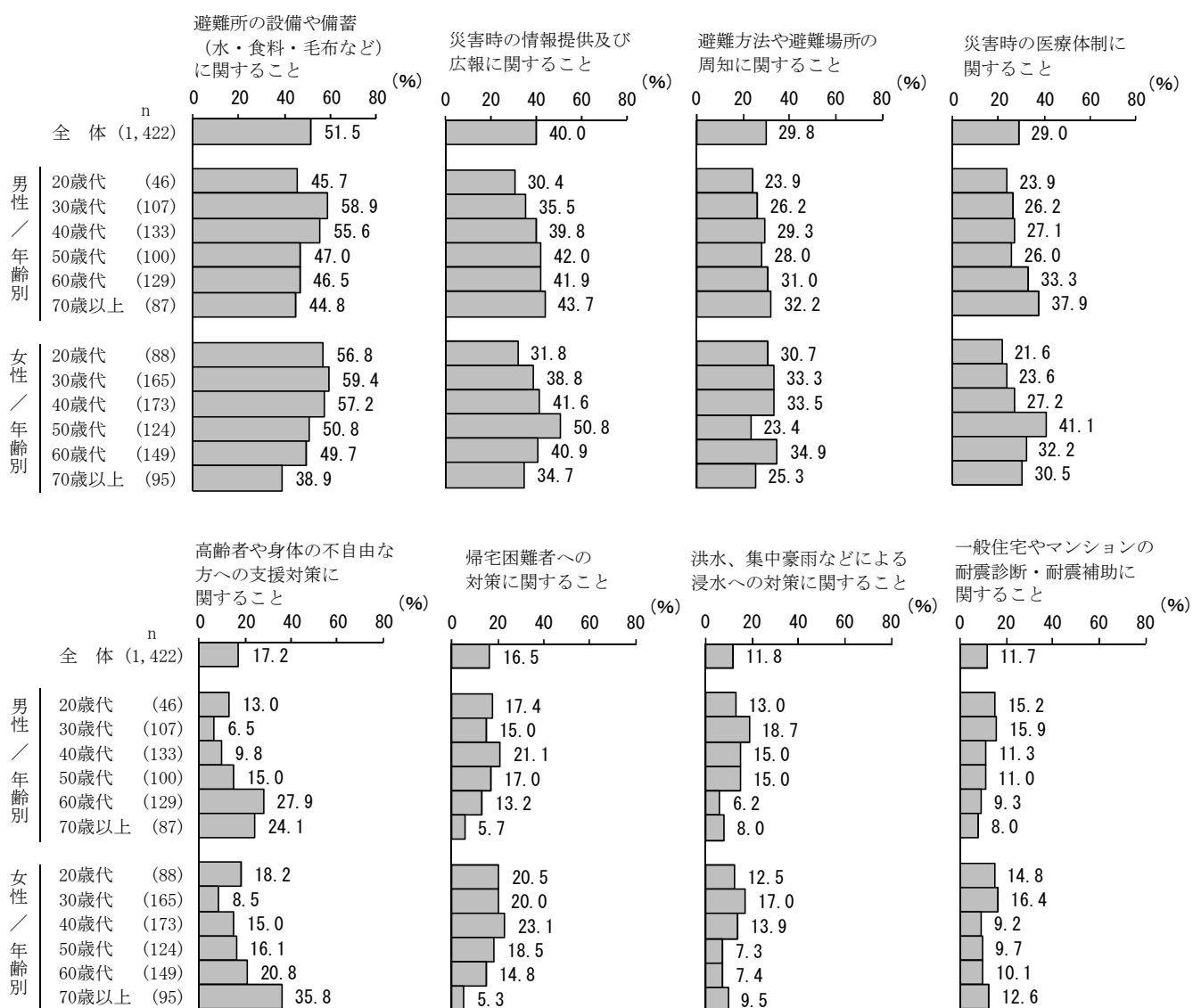
図表8-22 防災対策で行政に特に力を入れてもらいたいこと

(複数回答) n=1,422



防災対策で行政に特に力を入れてもらいたいことについては、「避難所の設備や備蓄（水・食料・毛布など）に関すること」（51.5%）が最も多くなっている。次いで、「災害時の情報提供及び広報に関すること」（40.0%）、「避難方法や避難場所の周知に関すること」（29.8%）、「災害時の医療体制に関すること」（29.0%）と続いている。（図表8-22）

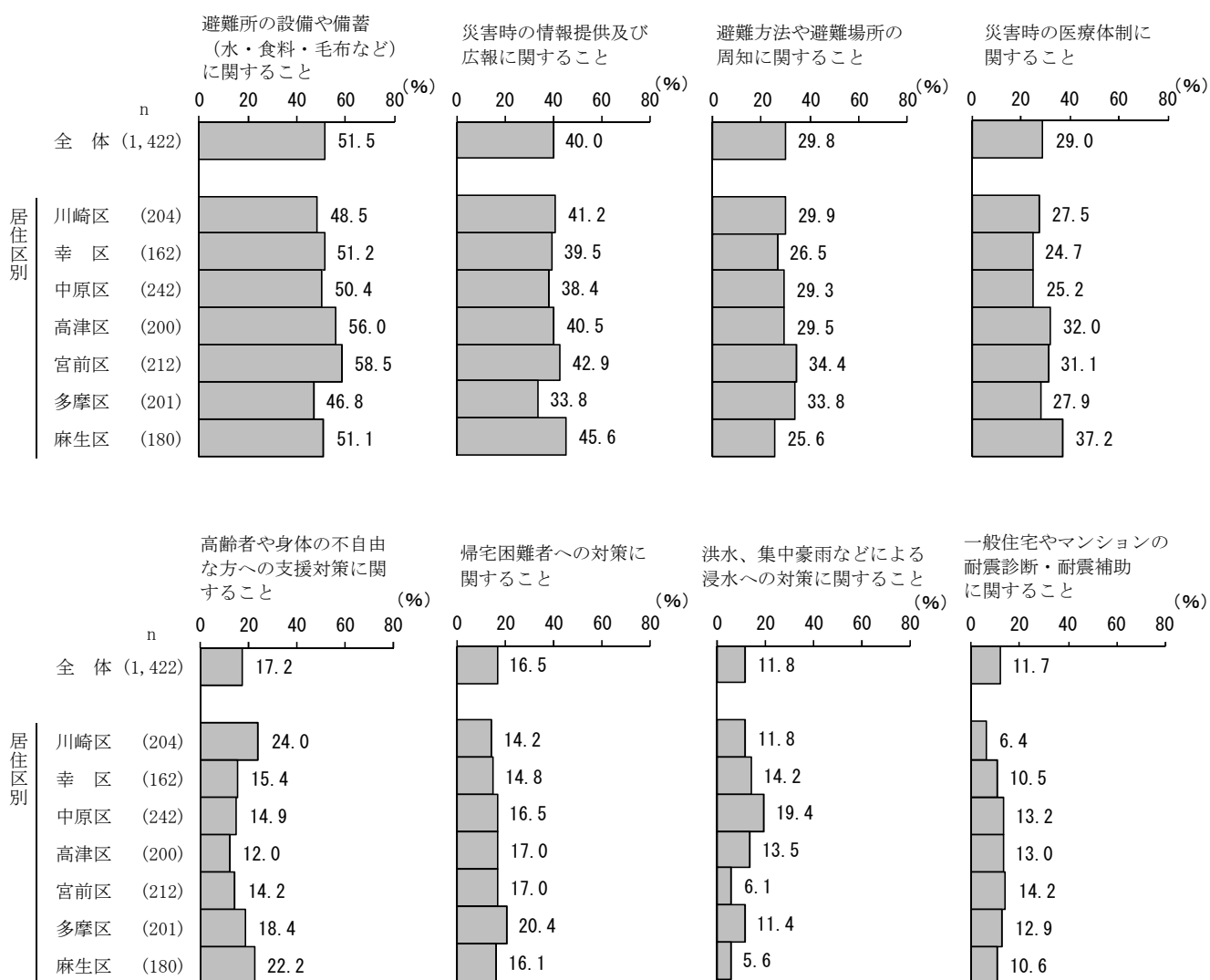
図表8-23 防災対策で行政に特に力を入れてもらいたいこと（性／年齢別、上位8項目）



性／年齢別では、「避難所の設備や備蓄（水・食料・毛布など）に関すること」は、男性では、30歳代（58.9%）、40歳代（55.6%）、女性では、20歳代（56.8%）、30歳代（59.4%）、40歳代（57.2%）、50歳代（50.8%）と5割を超えている。「災害時の情報提供及び広報に関すること」は、男性では、年齢が高くなるほど、女性では、50歳代（50.8%）が多くなっている。（図表8-23）

(第2回アンケート)

図表8-24 防災対策で行政に特に力を入れてもらいたいこと（居住区別、上位8項目）



居住区別では、「避難所の設備や備蓄（水・食料・毛布など）に関すること」は、宮前区（58.5%）が最も多くなっている。次いで、高津区（56.0%）、幸区（51.2%）、麻生区（51.1%）と続いている。「災害時の情報提供及び広報に関すること」は、麻生区（45.6%）が最も多くなっている。次いで、宮前区（42.9%）、川崎区（41.2%）、高津区（40.5%）と続いている。（図表8-24）

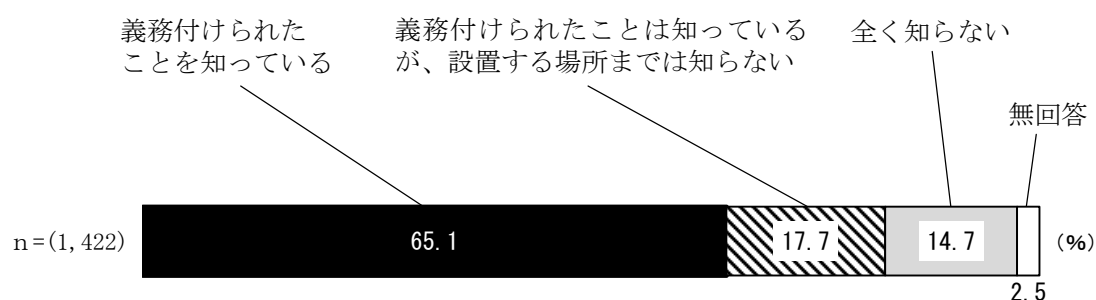
9 住宅用火災警報器の設置および維持管理について

9-1 「住宅用火災警報器」の設置義務の認知度

◎「義務付けられたことを知っている」が65.1%

問 35 川崎市では、平成23年6月1日から、全ての住宅の寝室、台所、階段の上部（上階に寝室がある場合）に住宅用火災警報器の設置が義務付けられていますが、あなたは知っていますか。（〇は1つだけ）

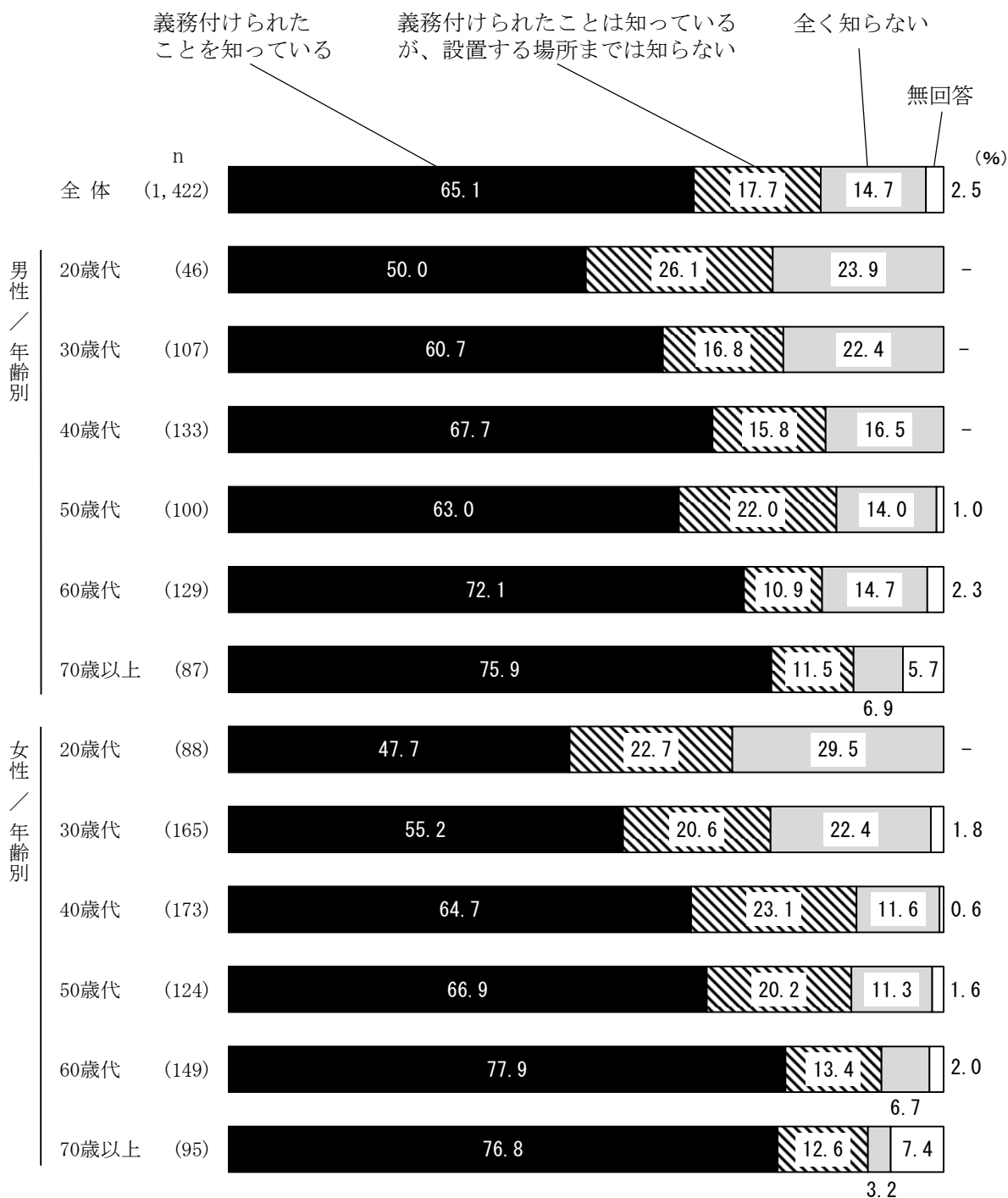
図表 9-1 「住宅用火災警報器」の設置義務の認知度



「住宅用火災警報器」の設置義務の認知度については、「義務付けられたことを知っている」が65.1%と最も多くなっている。一方、「全く知らない」は、14.7%となっている。（図表9-1）

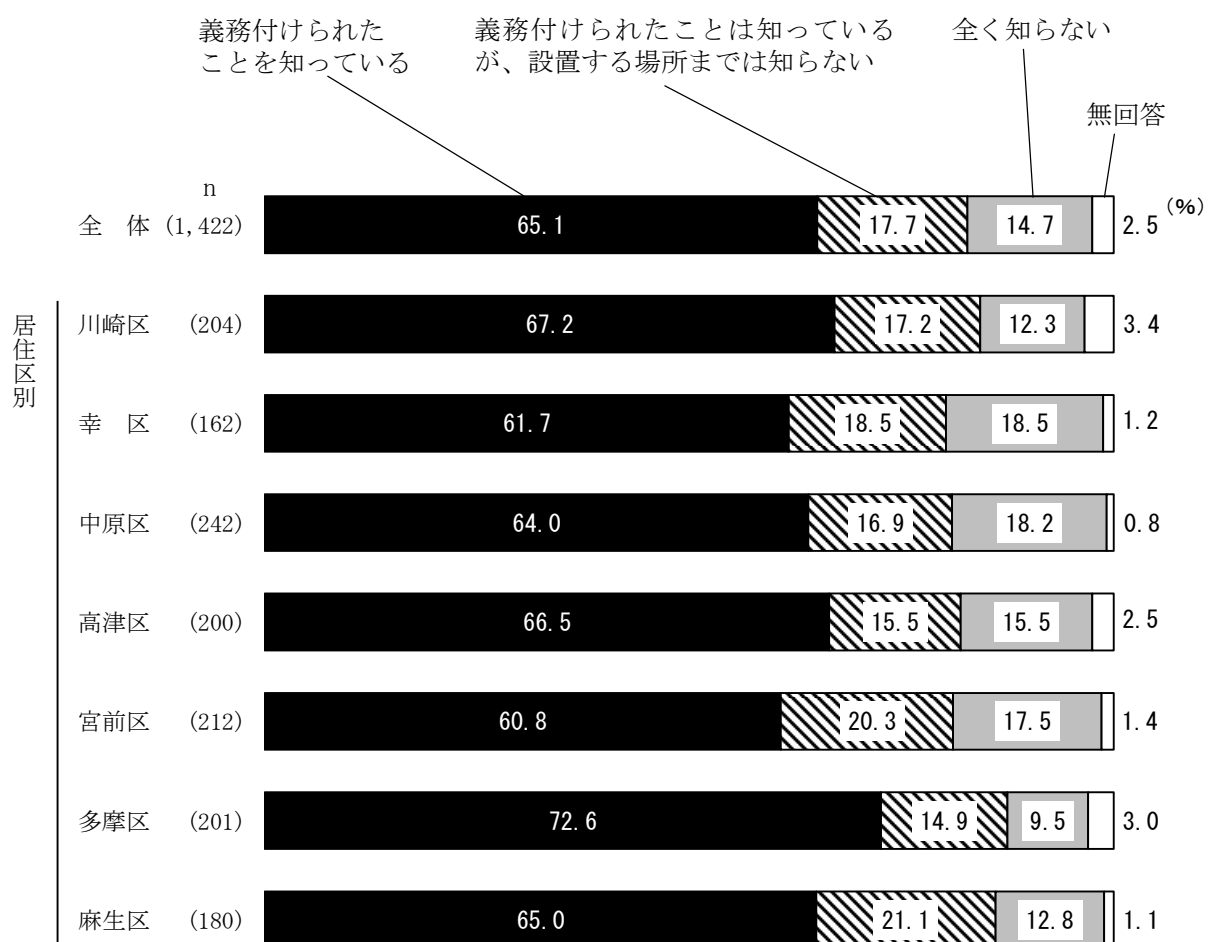
(第2回アンケート)

図表9-2 「住宅用火災警報器」の設置義務の認知度(性/年齢別)



性/年齢別では、「義務付けられたことを知っている」は、男女ともに年齢層が上がるにつれ、多くなる傾向にある。「全く知らない」は、男女ともに20歳代から30歳代にかけて多く、2割台となっている。(図表9-2)

図表9-3 「住宅用火災警報器」の設置義務の認知度(居住区別)



居住区別では、「義務付けられたことを知っている」は、多摩区(72.6%)が他の区に比べ多い傾向にある。次いで、川崎区(67.2%)、高津区(66.5%)、麻生区(65.0%)の順となっている。(図表9-3)

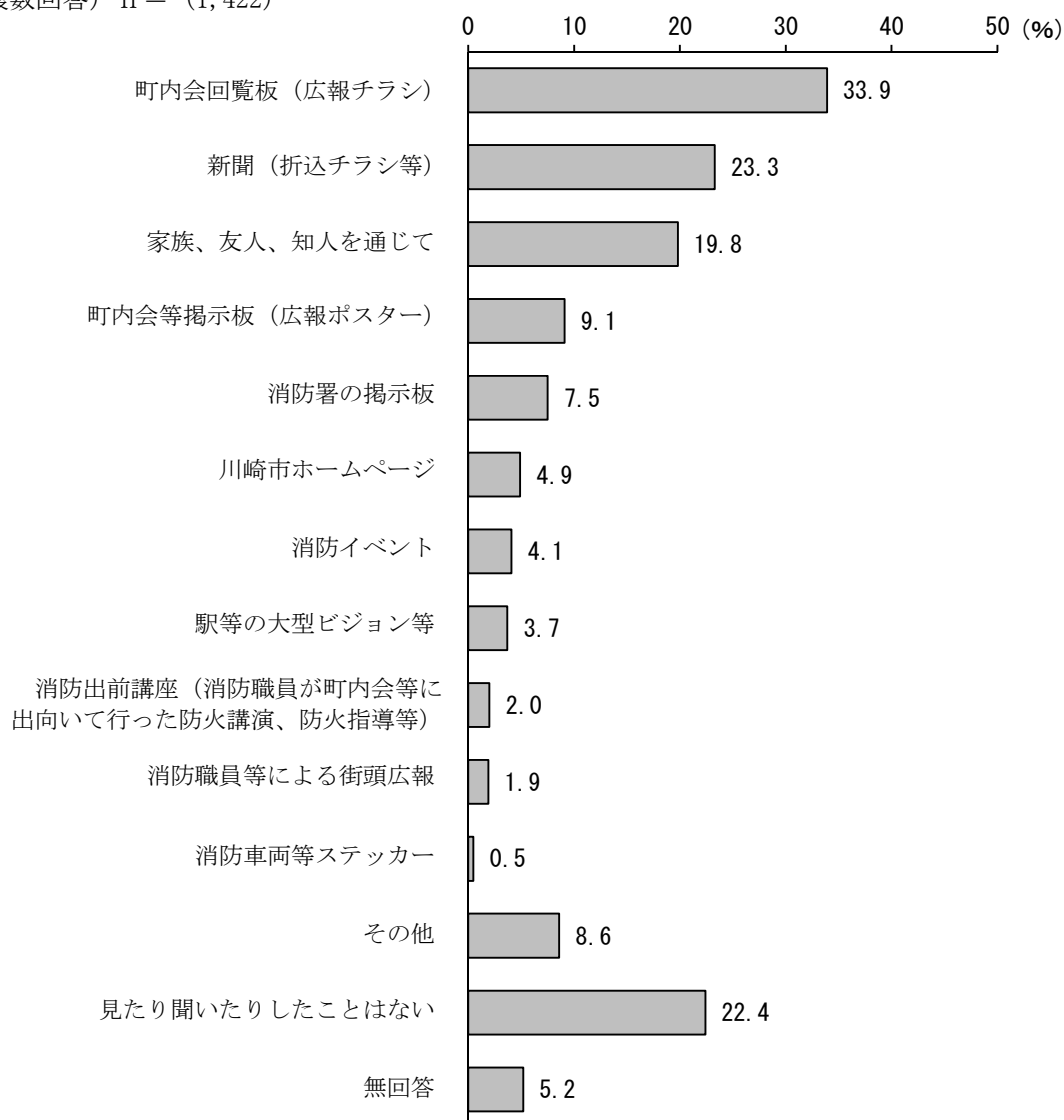
9-2 「住宅用火災警報器」の広報活動の認知度

◎「町内会回覧板（広報チラシ）」が33.9%

問 36 住宅用火災警報器については、設置促進、維持管理等についてさまざまな広報を行っていますが、あなたが、実際に見たり聞いたりしたものは何ですか。（あてはまるもの全てに○）

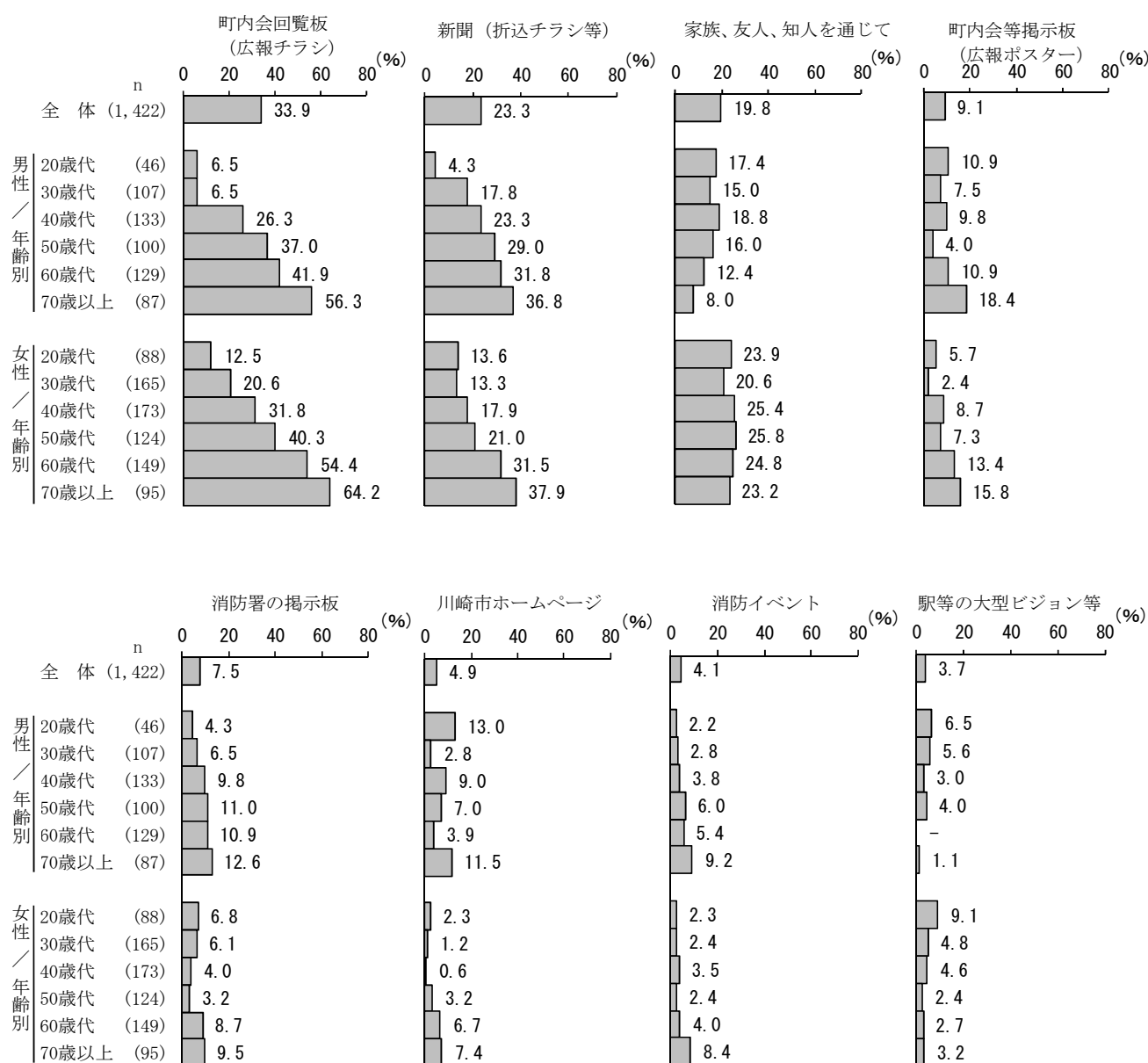
図表 9-4 「住宅用火災警報器」の広報活動の認知度

(複数回答) n = (1,422)



「住宅用火災警報器」の広報活動の認知度については、「町内会回覧板（広報チラシ）」が33.9%と最も多くなっている。次いで、「新聞（折込チラシ等）」（23.3%）、「家族、友人、知人を通じて」（19.8%）、「町内会等掲示板（広報ポスター）」（9.1%）と続いている。（図表 9-4）

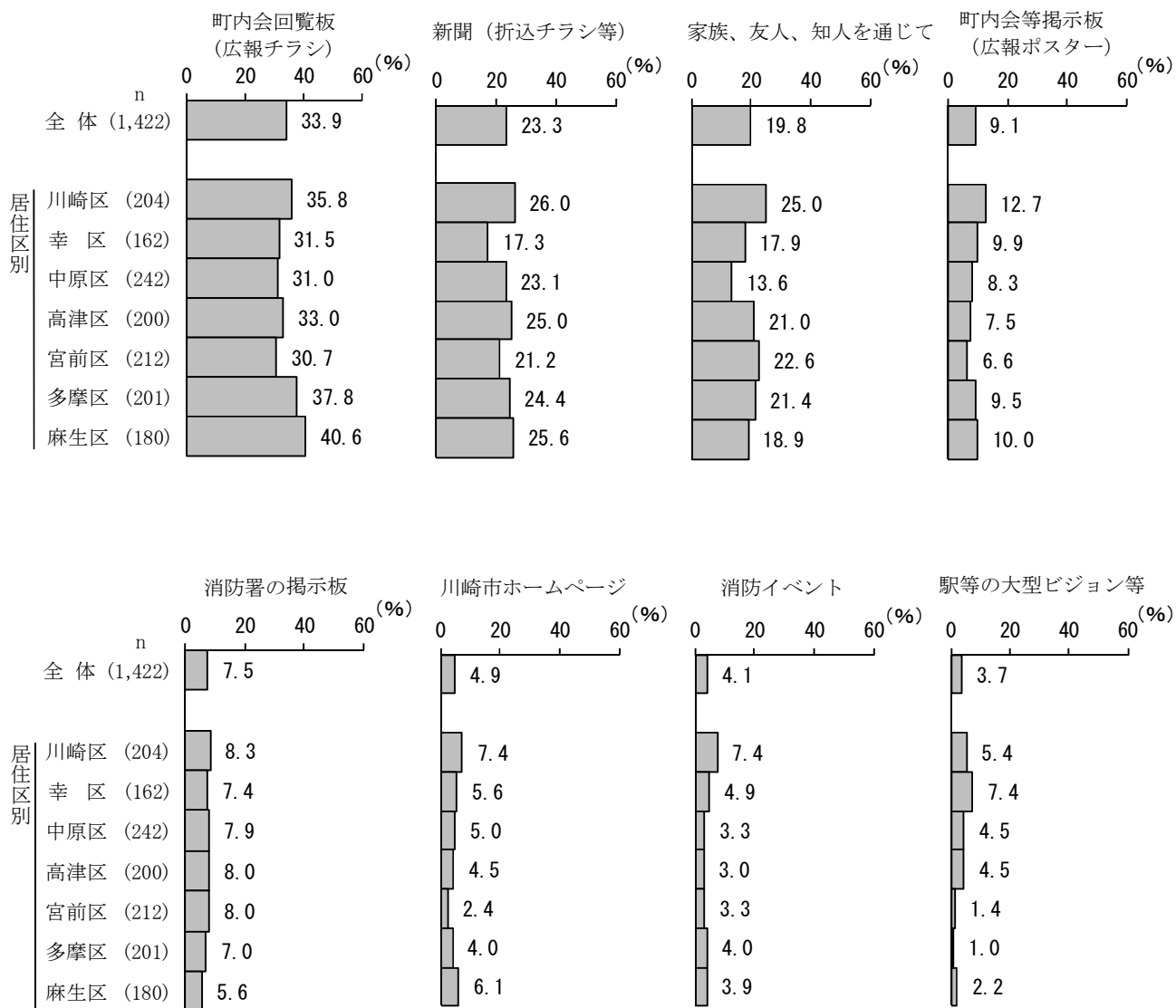
図表9-5 「住宅用火災警報器」の広報活動の認知度(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、「町内会回覧板(広報チラシ)」が、70歳以上の女性で64.2%と多い。「川崎市ホームページ」は、20歳代の男性が他の年齢層に比べ多くなっている。(図表9-5)

(第2回アンケート)

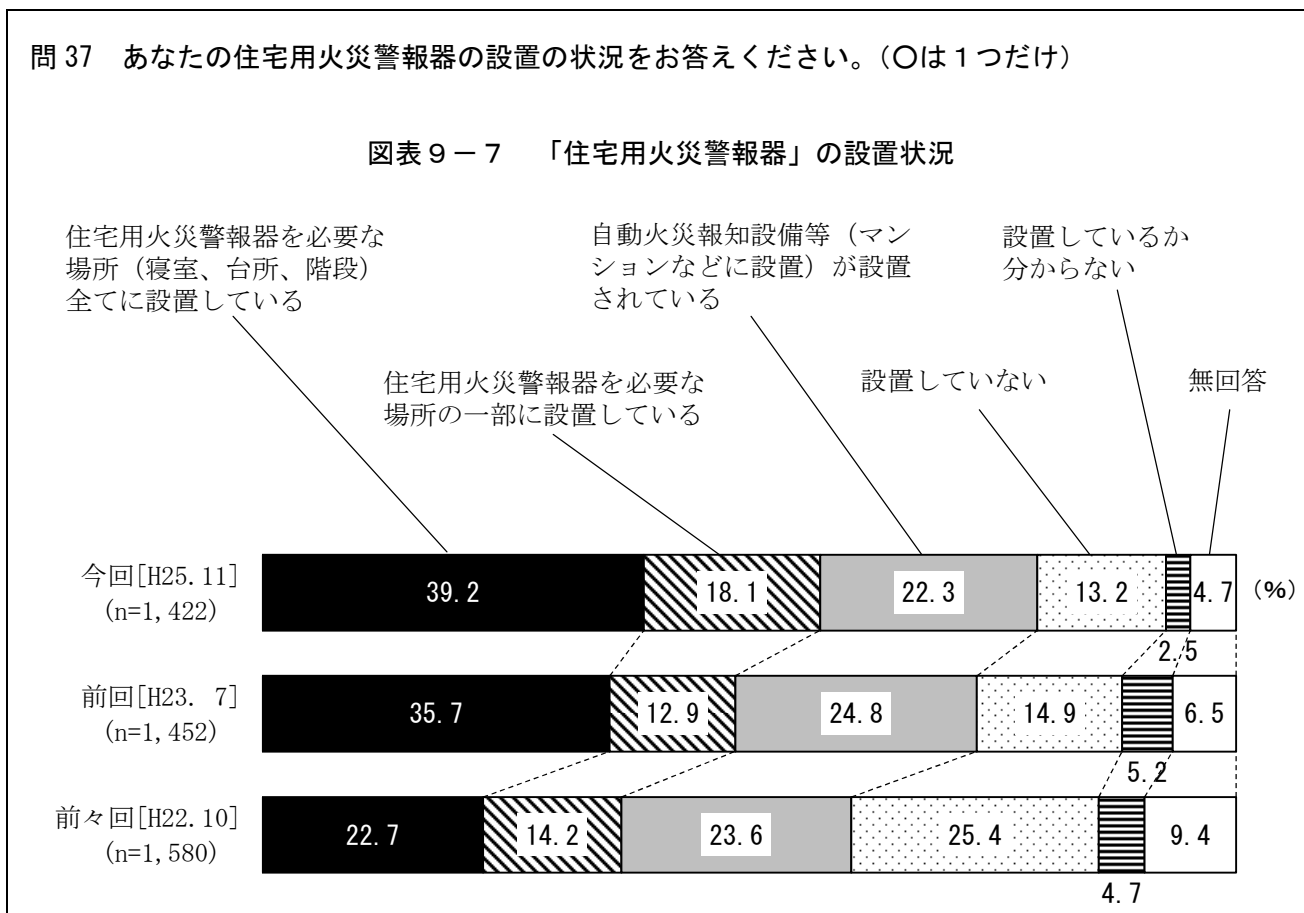
図表9-6 「住宅用火災警報器」の広報活動の認知度(居住区別、上位8項目)



居住区別では、麻生区が「町内会回覧板 (広報チラシ)」と40.6%が回答している。「駅等の大型ビジョン等」は幸区が他の区に比べ多い。(図表9-6)

9-3 「住宅用火災警報器」の設置状況

◎「住宅用火災警報器を必要な場所（寝室、台所、階段）全てに設置している」が39.2%

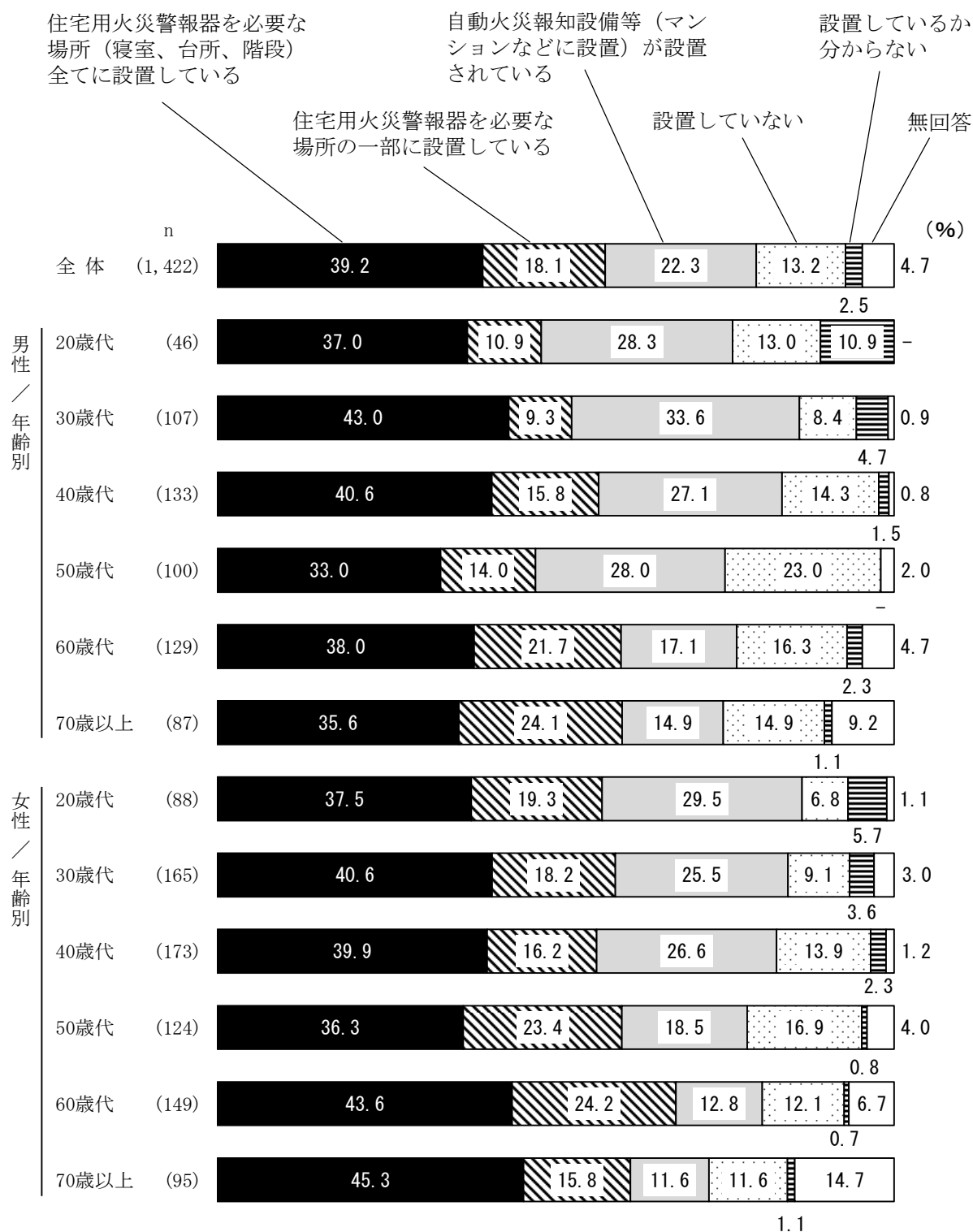


「住宅用火災警報器」の設置状況については、「住宅用火災警報器を必要な場所（寝室、台所、階段）全てに設置している」が39.2%と最も多くなっている。次いで、「自動火災報知設備等（マンションなどに設置）が設置されている」（22.3%）、「住宅用火災警報器を必要な場所の一部に設置している」（18.1%）と続いている。

前回、前々回調査と比較すると、「住宅用火災警報器を必要な場所（寝室、台所、階段）全てに設置している」は年々多くなり、「設置していない」は年々少なくなっている。（図表9-7）

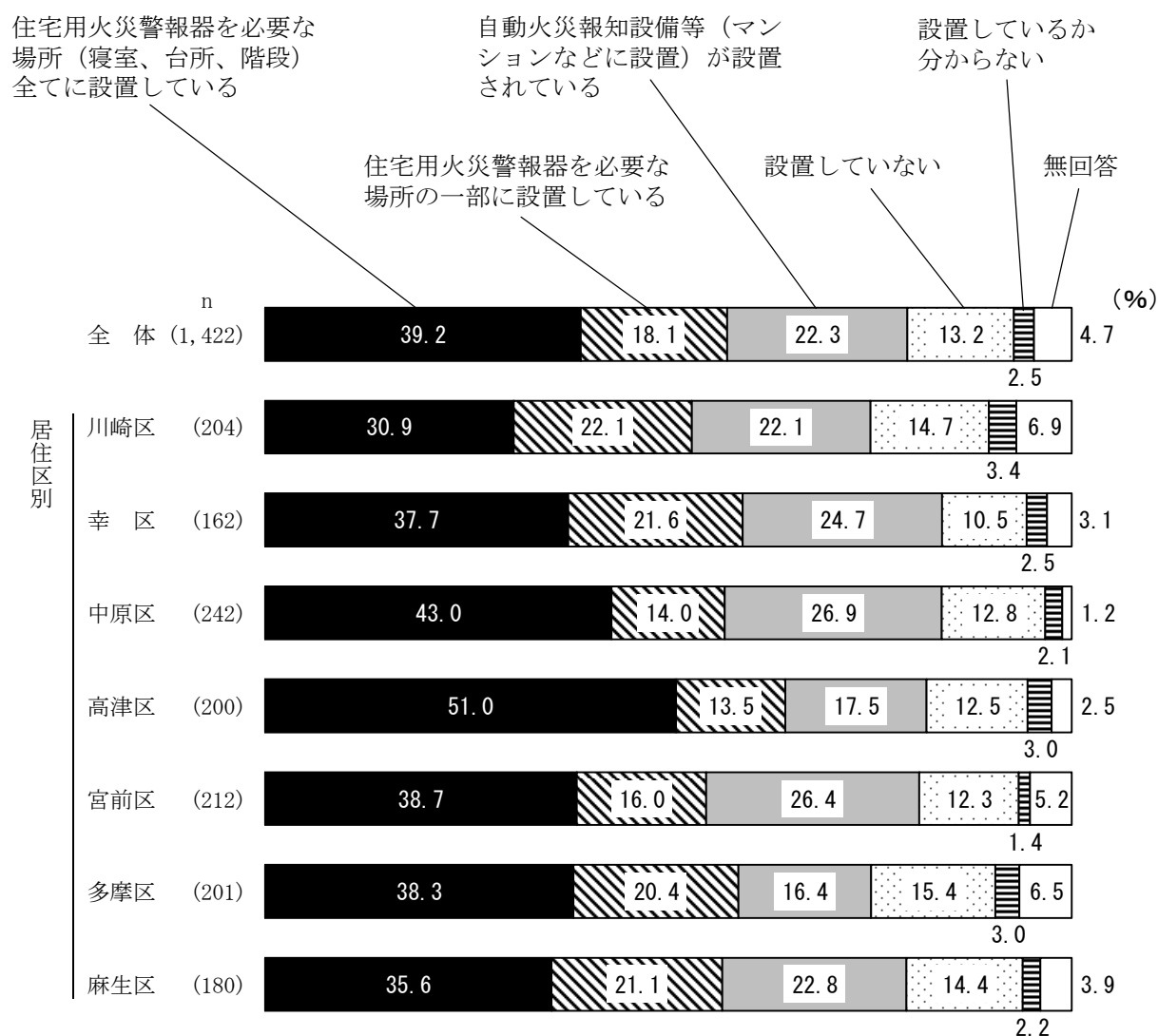
(第2回アンケート)

図表9-8 「住宅用火災警報器」の設置状況(性/年齢別)



性/年齢別では、30歳代から40歳代の男性と30歳代及び60歳代以上の女性の4割が「住宅用火災警報器を必要な場所(寝室、台所、階段)全てに設置している」と回答している。(図表9-8)

図表9-9 「住宅用火災警報器」の設置状況(居住区別)



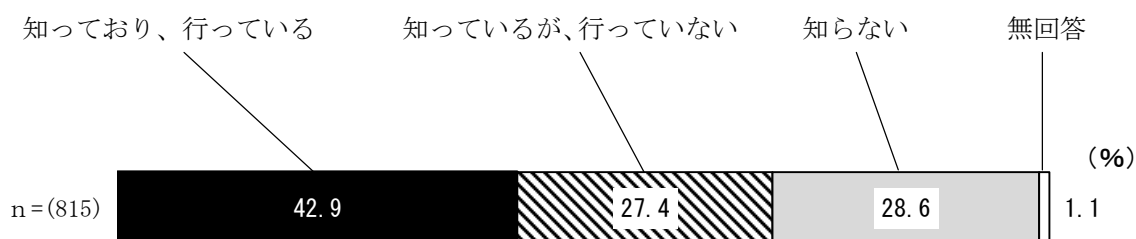
居住区別では、「住宅用火災警報器を必要な場所(寝室、台所、階段)全てに設置している」は、高津区(51.0%)が5割を超え多くなっている。(図表9-9)

9-4 「住宅用火災警報器」の維持管理の認知度

◎「知っており、行っている」が42.9%

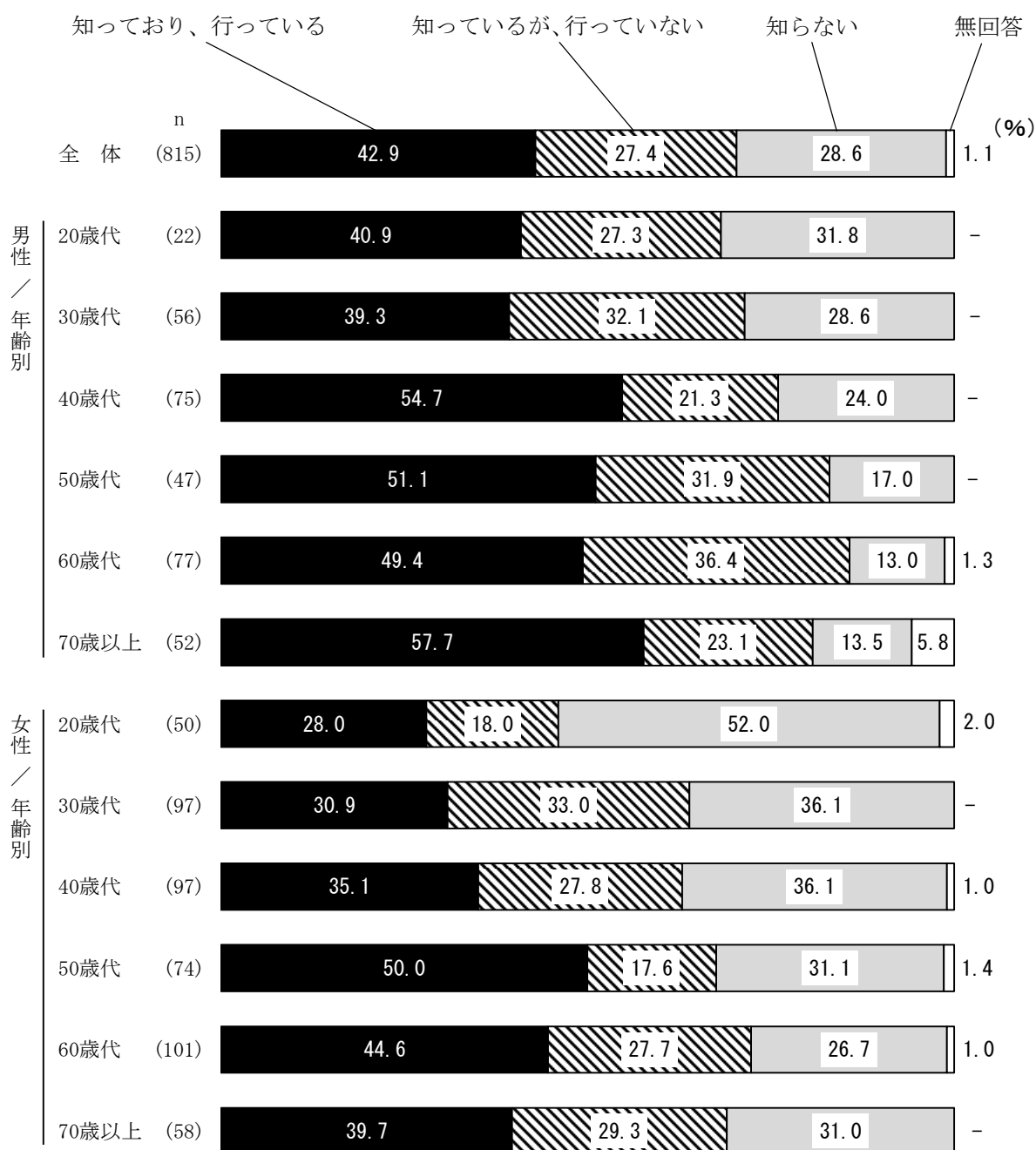
問 38 (問 37 で「1 住宅用火災警報器を必要な場所全てに設置している」または「2 住宅用火災警報器を必要な場所の一部に設置している」と回答した方にうかがいます。)
設置した住宅用火災警報器は清掃、点検、電池切れ対策等の維持管理が必要ですが、あなたは知っていますか。(○は1つだけ)

図表 9-10 「住宅用火災警報器」の維持管理の認知度



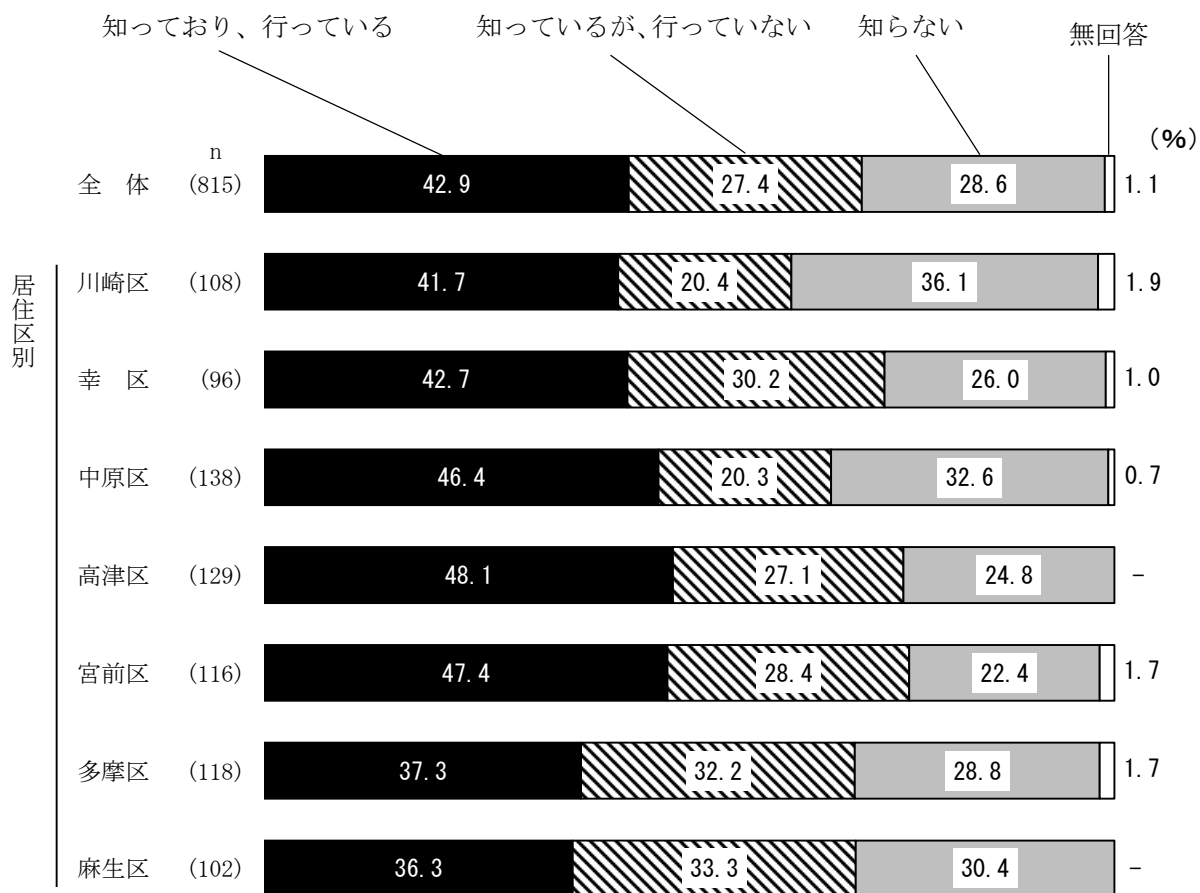
「住宅用火災警報器」の維持管理の認知度については、「知っており、行っている」が 42.9% と 4 割台の人が維持管理を行っているが、「知っているが、行っていない」(27.4%) と「知らない」(28.6%) を合わせた維持管理を行っていない人は、56.0%と 5 割台半ばになっている。(図表 9-10)

図表9-11 「住宅用火災警報器」の維持管理の認知度(性/年齢別)



性/年齢別では、住宅用火災警報器は清掃、点検、電池切れ対策等の維持管理が必要なことを「知っている」人は、男性に多い。70歳以上の男性は「知っている、行っている」で57.7%と最も多くなっている。(図表9-11)

図表9-12 「住宅用火災警報器」の維持管理の認知度(居住区別)



居住区別では、「知っている、行っている」は、高津区(48.1%)、宮前区(47.4%)、中原区(46.4%)で多い傾向にある。(図表9-12)

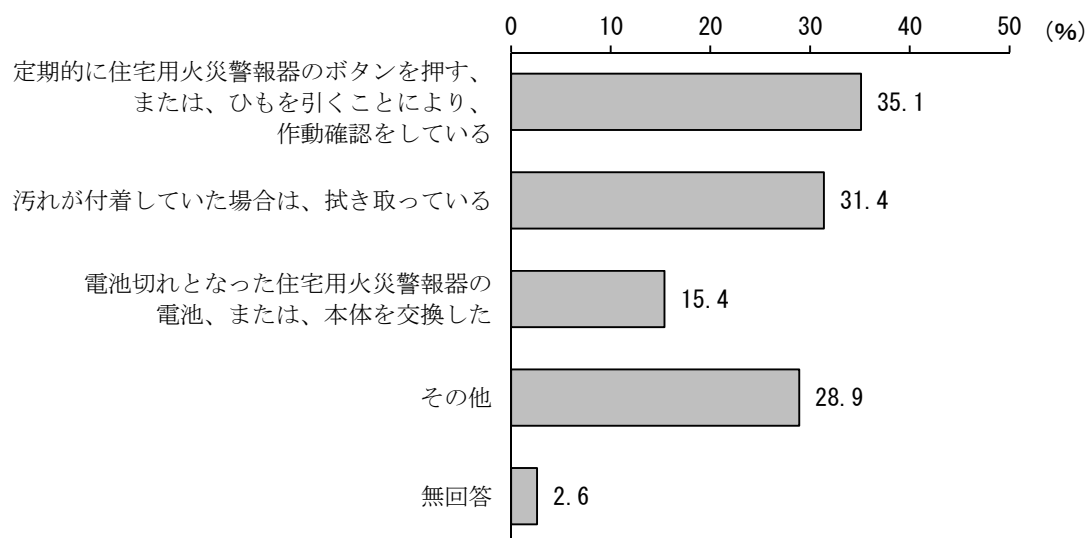
9-5 「住宅用火災警報器」の維持管理方法

◎「定期的に住宅用火災報知器のボタンを押す」が35.1%

問39 (問38で「1 知っており、行っている」と回答した方にうかがいます。)
あなたが行っている維持管理についてお答えください。(あてはまるもの全てに○)

図表9-13 「住宅用火災警報器」の維持管理方法

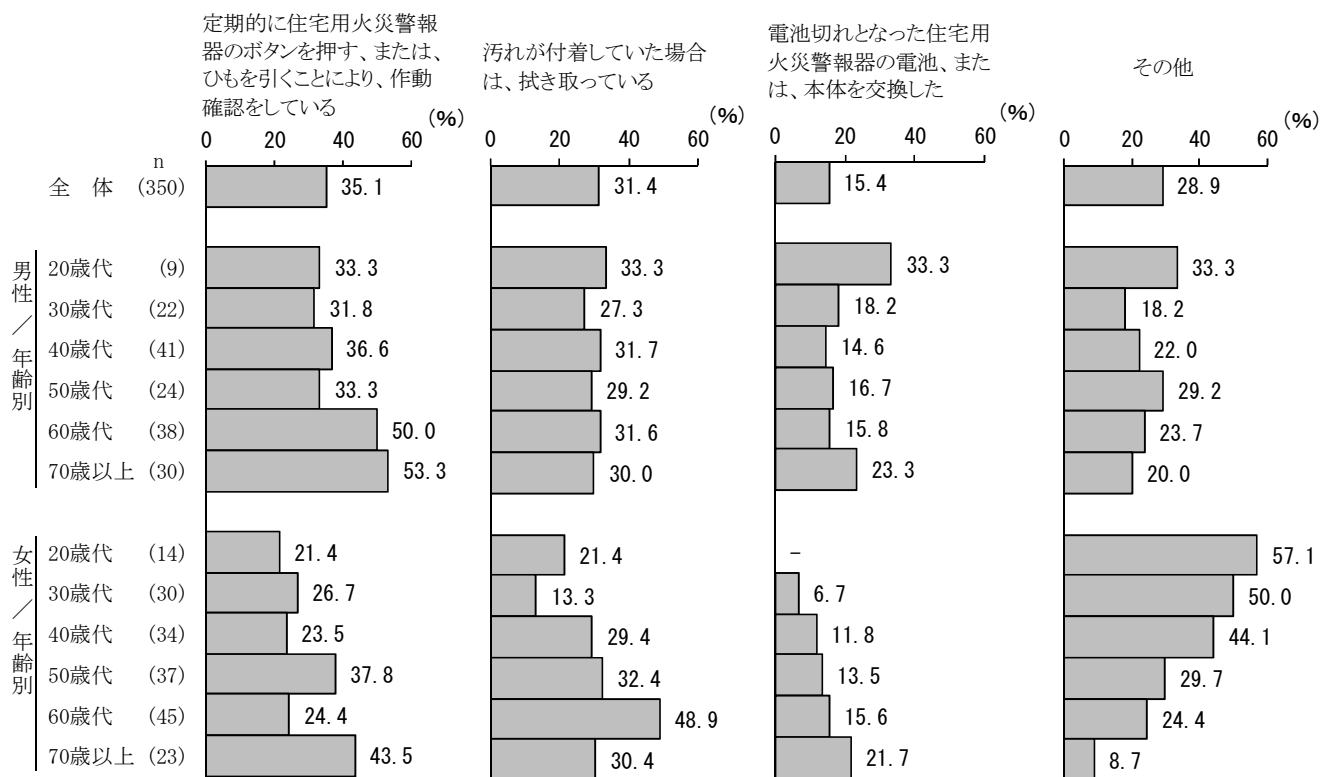
(複数回答) n = (350)



「住宅用火災警報器」の維持管理方法については、「定期的に住宅用火災報知器のボタンを押す、または、ひもを引くことにより、作動確認をしている」が35.1%と最も多くなっている。次いで、「汚れが付着していた場合は、拭き取っている」(31.4%)、「電池切れとなった住宅用火災警報器の電池、または、本体を交換した」(15.4%)と続いている。(図表9-13)

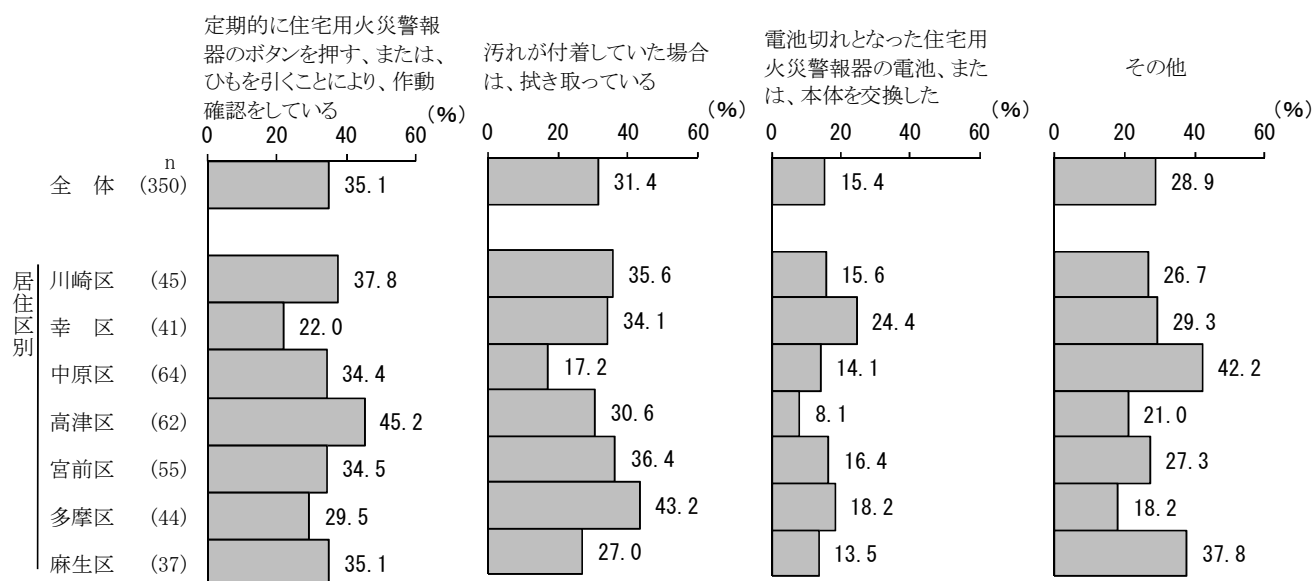
(第2回アンケート)

図表9-14 「住宅用火災警報器」の維持管理方法(性/年齢別)



性/年齢別では、「定期的に住宅用火災警報器のボタンを押す、または、ひもを引くことにより、作動確認をしている」が男性の60歳代(50.0%)、70歳以上(53.3%)で5割を超え多くなっている。「汚れが付着していた場合は、拭き取っている」は、女性の60歳代が48.9%で最も多くなっている。(図表9-14)

図表9-15 「住宅用火災警報器」の維持管理方法（居住区別）



居住区別では、「定期的に住宅用火災警報器のボタンを押す、または、ひもを引くことにより、作動確認をしている」で高津区の45.2%が最も多く、川崎区(37.8%)、麻生区(35.1%)と続いている。「汚れが付着していた場合は、拭き取っている」は、多摩区の43.2%が最も多く、宮前区(36.4%)、川崎区(35.6%)と続いている。(図表9-15)

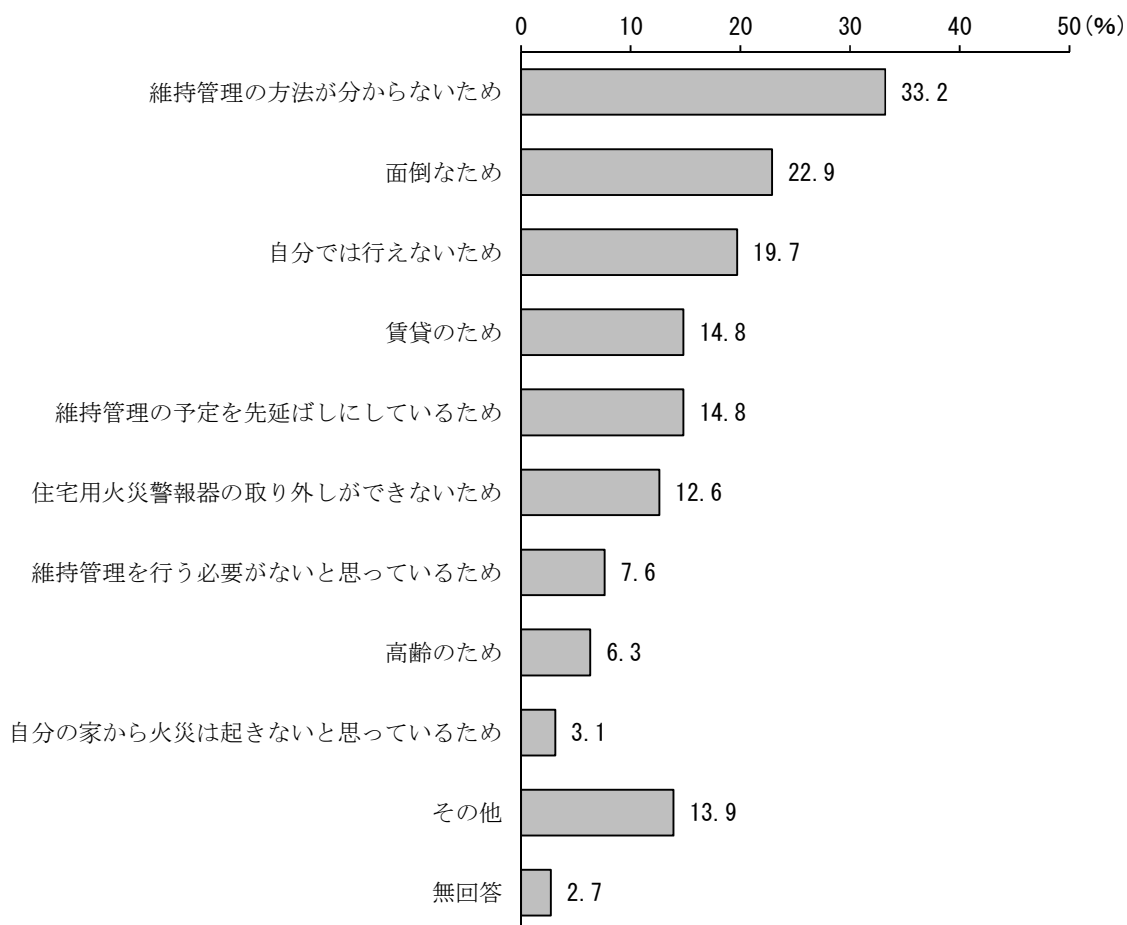
9-6 維持管理を行わない理由

◎「維持管理の方法が分からないため」が33.2%

問40 (問38で「2 知っているが、行っていない」と回答した方にうかがいます。)
あなたが維持管理を行っていない理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

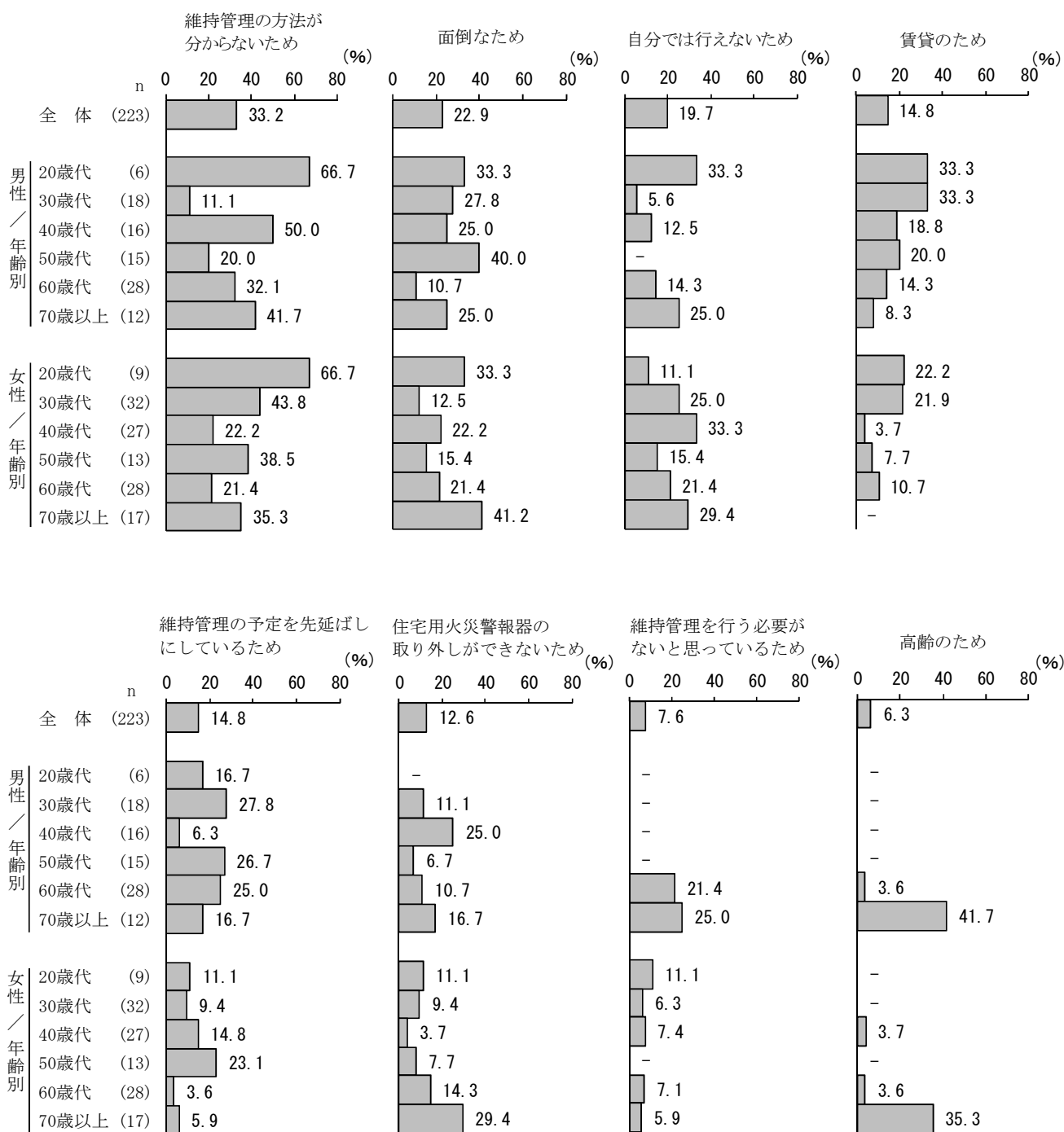
図表9-16 維持管理を行わない理由

(複数回答) n = (223)



維持管理を行わない理由については、「維持管理の方法が分からないため」が33.2%と最も多くなっている。次いで、「面倒なため」(22.9%)、「自分では行えないため」(19.7%)、「賃貸のため」(14.8%)と続いている。(図表9-16)

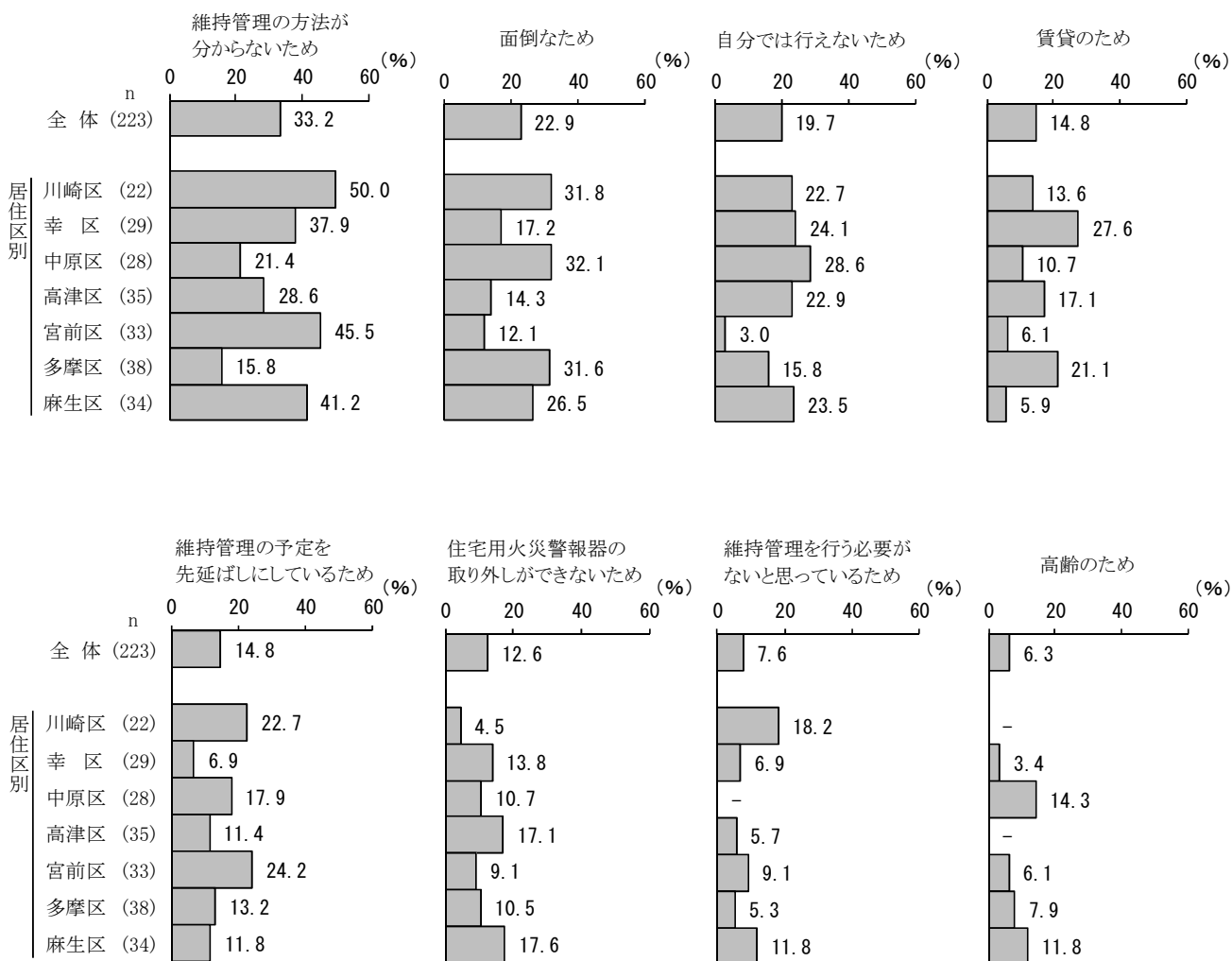
図表9-17 維持管理を行わない理由(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、「維持管理の方法が分からないため」が、男女ともに20歳代で多くなっている。(図表9-17)

(第2回アンケート)

図表9-18 維持管理を行わない理由（居住区別、上位8項目）



居住区別では、「維持管理の方法が分からないため」で川崎区の 50.0%が最も多く、宮前区 (45.5%)、麻生区 (41.2%) と続いている。(図表9-18)

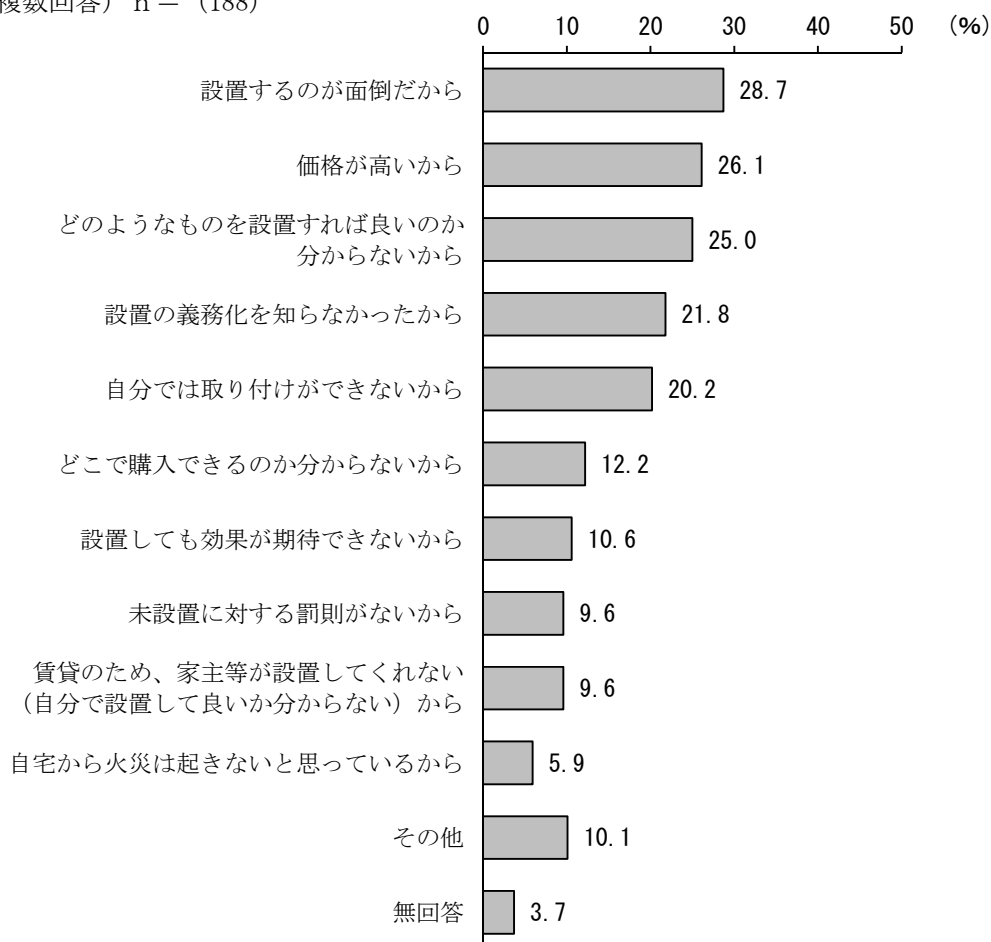
9-7 「住宅用火災警報器」を設置しない理由

◎「設置するのが面倒だから」が28.7%

問41 (問37で「5 設置していない」と回答した方にうかがいます。)
あなたが設置していない理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

図表9-19 「住宅用火災警報器」を設置しない理由

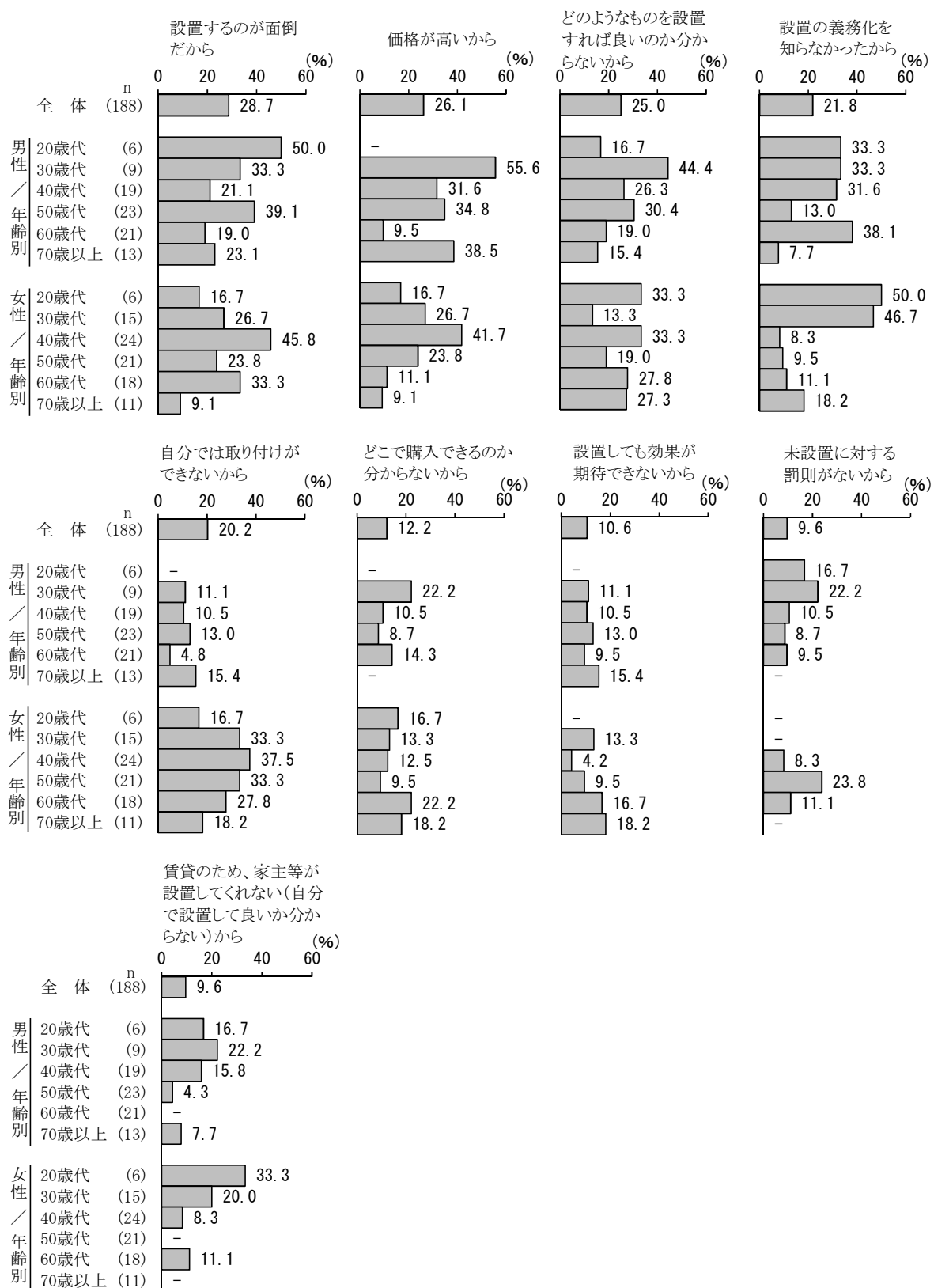
(複数回答) n = (188)



「住宅用火災警報器」を設置しない理由については、「設置するのが面倒だから」が28.7%と最も多くなっている。次いで、「価格が高いから」(26.1%)、「どのようなものを設置すれば良いのか分からないから」(25.0%)、「設置の義務化を知らなかったから」(21.8%)と続いている。(図表9-19)

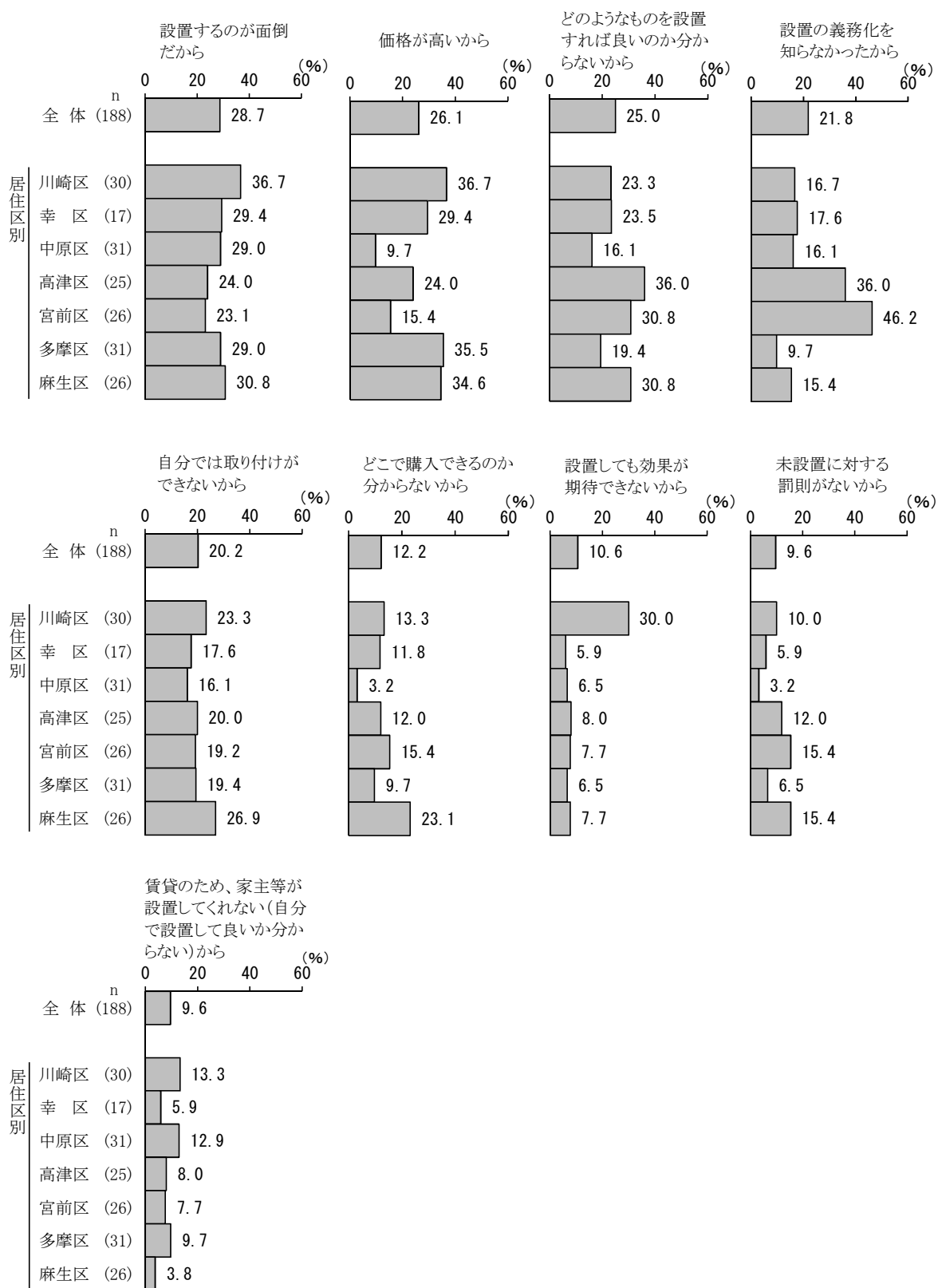
(第2回アンケート)

図表9-20 「住宅用火災警報器」を設置しない理由(性/年齢別、上位9項目)



性/年齢別では、「設置するのが面倒だから」は、20歳代男性(50.0%)が最も多く、「価格が高いから」は、30歳代男性(55.6%)が最も多かった。一方、「設置の義務化を知らなかったから」は、20歳代から30歳代の女性で多かった。(図表9-20)

図表9-21 「住宅用火災警報器」を設置しない理由(居住区別、上位9項目)



居住区別では、「設置の義務化を知らなかったから」は、高津区(36.0%)、宮前区(46.2%)で多かった。(図表9-21)

(第2回アンケート)